

慈恵大学の  
「今」を伝える  
法人情報誌

# The JIKEI

VOL. 40

2023/Summer

34歳でスウェーデン・カロリンスカ研究所 老年病学教室に留学した際、「君のPhilosophyは何?」と尋ねられ何も答えられなかった。私は哲学なき医療や研究をしてきたのかもしれないと思った。

その後45歳で公立の総合大学に移り、建築学、環境学、人類学、社会学などの様々に異なる領域の研究者たちと共同研究を行い、旧来の医療テーマに盲目的に没頭していた自分を俯瞰できた。自分を俯瞰できたことが嬉しかったのは、自分の哲学を探していたせいかもしれないと、定年を控えた今そう思う。

現在の私の医療実践における最大の関心は、患者がどのように自分の病気と向き合い、どのように障害を受け止めて治療に参加するか、そして、いかに医師をはじめとする医療職がそれを支えるかである。患者が絶望的な状況を受け止めつつ意思決定を行うことも、自分の苦痛に共感する人の眼差しを感じながらなら、できるかもしれない。最後の最後に医療専門職に求められる使命はここにあると思う。

東京慈恵会医科大学  
精神医学講座  
講座担当教授

繁田 雅弘

Masahiro Shigeta



## 02 巻頭言

全学で取り組む  
本学の質の向上を目指して

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

## 巻頭特集

## 03

東京慈恵会医科大学附属病院が  
念願の救命救急センターに指定される

東京慈恵会医科大学附属病院  
病院長 小島 博己

東京慈恵会医科大学附属病院  
救命救急センター長(救急部 診療部長)  
東京慈恵会医科大学 救急医学講座 講座担当教授 武田 聡

## Ongoing

## 07 01 教育

## 社会人大学院制度と連携大学院制度について

大学院医学研究科 医学系専攻大学院委員会委員長 生化学講座 講座担当教授 吉田 清嗣

## 09 02 研究

## 悪性高熱症を単一細胞レベルで再現することに世界で初めて成功!

～吸入麻酔薬や筋弛緩薬投与後の体温上昇メカニズム解明へ期待～

総合医科学研究センター 基礎研究施設 教授 山澤 徳志子

## 11 03 診療

## ここまできた! 股関節に対する低侵襲手術

～鏡視下手術・骨切り術・筋腱温存人工関節～

整形外科講座 准教授 藤井 英紀

## Nursing

## 13

## 看護学科教育・研究実務研修に参加して

附属第三病院 看護部 管理師長  
看護学科 臨床准教授 朝倉 真奈美

## PDC から PDCA へ

## 14

## 大学評価の基準に沿った新しい問題点とその改善

東京慈恵会医科大学学長補佐 学校法人 慈恵大学 内部質保証推進委員会 委員長 柳澤 裕之

## Column

## 15

## 新任講座担当教授 紹介

## Topics

## 16

## 慈恵大学と渋沢栄一

学術情報センター 課長 阿部 信一

## 17 News Flash

2022年 12月	東京消防庁からの表彰 看護学科学学生の人命救助について
2023年 1月	第14回 上智大学・東京慈恵会医科大学ジョイントシンポジウム開催 2022年度 退任記念講義並びに退任記念懇親会 総合医科学研究センター 2022年度退任記念講演
2月	第1268回 成医会例会「医師として、小説家として」 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 ～KANEHIROプログラム:病気を診ずして病人を診よ～ キックオフシンポジウム開催
3月	2022年度 医学部卒業式 産学官連携セミナー ―島津製作所との包括連携協定による成果報告を含めて― SPEECH BY KING'S STUDENTが開催されました 耳鼻咽喉科 大村和弘医師が、カンボジア国王より最高位モニサラボン大十字勲章を受章
4月	新入職員就任式 2023年度 医学部入学式
6月	港区および港区教育委員会との包括的連携協力に関する基本協定締結 2023年 主な行事予定表

## New Organization

## 26

新たな組織  
の紹介

## 総合医科学研究センター 次世代創薬研究部

次世代創薬研究部 講師 藤田 雄

## 27 Notice

- 大学公報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報)
- 生涯学習・公開セミナー等
- 補助金・助成金
- 財務報告
- プレスリリース
- メディア掲載一覧
- 院内表彰受賞者
- 寄付のお願い
- ガバナンス(行動憲章/行動規範)
- 医療連携窓口のご紹介

学校法人慈恵大学  
理事長 栗原 敏全学で取り組む  
本学の質の向上を目指して

新型コロナウイルス感染症は収束に向かい、2023年5月8日で第5類として扱われるようになりました。新型コロナウイルス感染症患者の約65%は私立医科大学附属病院が受け入れましたが、その中でも本学は4附属病院全体で約5,000名の患者さんを収容してきました。この数は全国の大学附属病院の中でもトップクラスです。ダイヤモンド・プリンセス号に、感染症専門の医師と看護師を派遣して以来、PCR検査の推進、ワクチン接種への協力など、本学は中心的役割を果たしてきたと思います。医師、看護師だけでなく、コ・メディカルスタッフ、教員、事務職員が連携を取りながら、対応してきました。大学全体として社会貢献したと言えます。

本院の救急部は、2023年3月20日に東京都から救命救急センターに指定されました。新外来棟建築を計画しているときに、旧港工業高校跡地を医療機関に貸与するという東京都の公募がありました。本学は応募して採択されましたが、貸与には母子医療と救急医療を実施することが条件でした。救急医療は西新橋キャンパス全体として実施すればよいという条件で、借用が決まりました。新外来棟がオープンし、母子医療は総合周産期母子医療センターとして認可され稼働しており、コロナ患者さんの出産にも全国に先駆けて取り組んできました。

このたび、本学附属病院は、東京都から救命救急センターに指定され、救急医療に取り組むという借用条件を満たしたことになります。本学はこれまで、どちらかというと救急医療に積極的ではありませんでしたが、今後、救命救急センターとしての任務を担うためには、EICU(Emergency Intensive Care Unit)の整備などが求められます。救急医療に、積極的に取り組む若手医師や学生が出てくることを願っています。

本学は今年、大学基準協会認証評価を受審することになっています。大学基準協会の評価は7年ごとに行われており、受審に向けて基礎資料を作成し提出に向けて準備をしています。私立大学のガバナンスが問題になる中、内部質保証制度が機能しているかが問われるものと思われます。大学として全学的に内部質保証制度を周知して、PDCA(plan, do, check, action)サイクルを各部署、また、法人全体として回すことの意義を共有するために、定期的に会議を開催しています。主要な会議には私も出席して、大学の質保証に全学的に取り組んでいます。また、教職員の意識を高めるために、スタッフディベロップメント(staff development, SD)の会議を開催して、職員の意識向上に努めています。このような大学全体としての取り組みが、大学の質の向上につながることを願っています。



# 東京慈恵会医科大学附属病院が 念願の救命救急センターに指定される

## 念願の救命救急センターの 指定を受けて

東京慈恵会医科大学附属病院  
病院長

小島 博己

2023年3月20日に東京慈恵会医科大学附属病院は東京都より救命救急センターとして認可され、始動いたしました。

当院は「高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する」特定医療機関として指定されている病院です。このような病院が先頭になって、24時間365日体制で全診療科の救急をカバーすることは社会的使命と考えます。救急には一次（帰宅可能な患者に対応）、二次（入院や手術が必要な患者を24時間体制で対応）、三次救急がありますが、三次救急は一次救急や二次救急では対応が難しい生命に関わる重症患者に対応する救急医療体制です。三次救急を行うためには専用病床や集中治療室があることなどの条件を満たすことが必要となります。

当院では2020年の新外来棟の完成に併せて、三次救命救急センターを併設できるように設計されましたが、その間2020年から新型コロナウイルス感染症が拡大し、とくに最初の1年は世界中で大変



な不安が生じ、医療機関は非常に混乱しました。

そのような中で当院では、最初にダイヤモンド・プリンセス号の患者さんを受け入れた時から、非常に多くの新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れ、また集中治療を必要とする重症症例の治療も積極的に行なってきました。一方で、特定機能病院として、がん診療をはじめとする脳血管障害、心臓疾患などの高度医療も従来通り継続しながら、コロナ診療も同時に行わなければならないという極めて難しい舵取りを強いられました。

意外なことに東京都は人口が多いにもかかわらず、全国平均と比較して救命救急センターが不足しています。当院は救命救急センターとしての認可を受けましたが、今後は早急にE-ICU（救急用の集中治療室）の新設や救急室のさらなる整備を行う予定です。また全国的に不足している救急医の確保と各診療科とのスムーズな連携・協力体制の強化をはかり、みなさまが安心してかかることができる病院を目指してゆきます。

リン、リン♪（電話の呼び出し音）

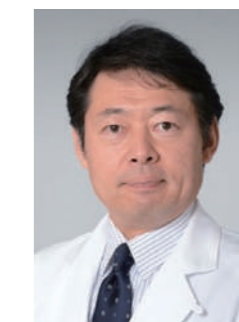
**救命ホットライン**：こちら東京消防庁指令センターです、慈恵大学病院救命救急センターで間違いないでしょうか？62歳男性、新橋駅烏森口改札口での心停止、目撃者がいらっしゃり、バイスタンダーCPRとAEDによる除細動が1回行われています。救急隊到着時のモニター波形は引き続き心室細動、救急隊がさらに1回の除細動を行って、現在胸骨圧迫を続けながら救急車内に収容しました。これから5分で慈恵大学病院救命救急センターに伺えますが、受け入れ可能でしょうか？

**救急医A**：受け入れ可能です。直ぐにいらして下さい。お待ちしております。

**看護師**：初療室に受け入れの準備を始めます。リーダーはA先生ですね、5分後に救急隊が到着したら胸骨圧迫を自動胸骨圧迫器に付け替えて、直ぐに救命処置を引き継ぎましょう。

**救急医A**：では気道管理をB先生、直ぐに気管挿管をお願いします。ルート確保はC先生、左正中皮静脈から18Gをお願いします。また他のスタッフで家族などからの情報収集も同時進行で進めましょう。準備をお願いします。

活気のある声が救命救急センターに響き、スタッフが救急車受け入れ準備を始めた。



東京慈恵会医科大学附属病院  
救命救急センター長（救急部 診療部長）  
東京慈恵会医科大学  
救急医学講座 講座担当教授

武田 聡

東京慈恵会医科大学附属病院（本院）は2023年3月20日に東京都から救命救急センターの指定を受けました。本学附属4病院としては、2012年4月に附属柏病院が一足先に千葉県から救命救急センターの指定を受けていましたが、特に本院の救命救急センター化は、大学としても病院としても救急医学講座としてもこれまで長年の念願でもありました。

### ＊これまでの経過

本院の救急部が設立され実働が開始されたのは1999年9月でした。救急部は旧外来A棟の1階に位置して、当時は各科から救急部に出向となった内科4名外科系4名の合計8名の医師で運営されていました。





重症な救命センター事例を受け入れる初療室の様子。



2019年12月末に新外来棟より一足早くオープンした新救急部。

2005年5月には小川武希診療部長が初代講座担当教授として救急医学講座が開設され、2006年4月からは「救急科」が、独立した診療科として救急診療をできるようになりました。

このような救急部や救急科の体制整備に伴い、本院での年間の救急車の受け入れ台数は、以前の3,000~4,000台から最近では7,000~8,000台まで倍増して、都内の大学病院でもトップクラスの救急車の受け入れ台数となっています。また新型コロナ感染流行前は、救急車の受け入れ要請を何%受け入れたかの「応需率」は94%と都内でもトップクラスを誇っていました。風邪や胃腸炎などの直接来院される軽症患者に対する1次救急から、激増した救急車の2次救急、さらに慈恵が得意とする心血管大血管脳血管などの重症な一部3次救急まで、幅広く軽症から重症までを受け入れる体制(2.5次救急)は「北米ER型救急」とも呼ばれ、都内の大学病院では珍しいスタイルで、本院救急部の特徴にもなっていました。



救急看護師お揃いのスクラブで頑張っています。

しかし本院としては課題もあり、救命救急センターではないので、心停止事例やショック事例など重症な事例の受け入れ先として東京消防庁から選定してもらえず、本院かかりつけ患者さんはもちろん、慈恵関係者やご紹介の患者さんであっても、3次救命センター事例と判断されると救急車が本院に搬送してくれない、というような事例も経験して、患者さんやご関係の方々にご迷惑をおかけしたり、また我々スタッフも苦しい想いもしていました。また救急医学講座としての課題もあり、例えば私の専門は「循環器救急」で、「蘇生」や突然死の原因となる心室細動へのAED(自動体外式除細動器)などを使用した「除細動」などを特に得意分野としていますが、これまでは救命救急センターでは無かったこともあり、大学病院としてこの専門分野での若手医師や医学生への実際の臨床での教育や研究の機会が限定的で、日頃からもっと多くの医学生や若手医師にこの分野の魅力を経験させて伝えられたら、と考えていました。

今回の西新橋キャンパス再整備計画では、東京都からの要請で救急医療や災害医療に力を入れることが明記され、2019年12月末には中央棟1階に全室個室の全く新しくなった救急部が、新外来棟の2020年1月のオープンより一足先に稼働し、これから数年でスタッフも施設も機材も体制も徐々に体制整備をして救命救急センターの指定を目指す、という段階にきていました。そして今回、まだまだ十分な準備ができたとは

言えない状況ではありましたが東京都からのお声掛けをいただき、2022年10月から12月の救命救急センター試行期間を経て審査を受けさせていただき、2023年3月20日に東京都から都内で27番目となる念願の救命救急センターの指定を受けることができました。いろいろなお尽力をいただきました大学や病院の関係各位、これまでお世話になった皆様、そしてご指導をいただきました皆様には、感謝の想いでいっぱいです。ありがとうございました。

### ＊ 救命救急センター指定後の現状

本院では昨年10月の救命救急センター試行期間から数多くの3次救命事例の受け入れを始めていましたが、救命救急センター指定後も引き続き、急性冠症候群、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、急性脳卒中、などこれまでも慈恵大学病院が得意としていた分野の重症疾患はもちろん、心停止、ショック、薬物中毒、重積痙攣など、幅広い重症疾患が搬送されてきており、スタッフ一同、各科ご専門の先生方のご協力もいただき、日々対応に追われています。私からも見ても、医師も看護師も目の色が変わり、重症症例への救命救急対応をテキパキとする姿には頼もしさを感じます。救命救急センターになって良かった、と感じる日々ですが、患者さんのお役に立てる救命救急センターであり続けられるためには、日々の地道な努力が欠かせません。スタッフ一丸となって頑張らせていただきますので、よろしくご指導をお願いいたします。

### ＊ 今後の展望

現在、附属病院(本院)は港区の救急医療や災害医療のリーダーであり、私も港区の救急業務連絡協議会の会長を拝命しており、また災害拠点病院の代表として港区の災害医療コーディネーターも拝命しております。都心中央に位置する港区は、昼間人口が90万人に対して夜間人口が20万人と、昼と夜の人口差が大きい他とは異なる特徴を持つ街でもあり、救急医療でも災害医療でも我々に期待される役割は大きいと考えています。

今回の本院の救命救急センターの指定を受けられたことで、「港区を世界で一番、安全安心な街に」、そんな夢の実現のスタート地点に立つことができたと考えています。これからがいよいよ真価が問われる大切な期間です。大学としても病院としても救急医学講座としても、救急医療、災害医療、患者安全、の分野で、少しでもお役に立てるように、頑張らせていただきます。

また救急医学講座としては、引き続き本院だけではなく、附属柏病院(救命センター長:卯津羅雅彦教授、診療部長:奥野憲司教授)はこれまで通り柏市唯一の救命救急センターとしての役割を果たし、また附属第三病院(診療部長:大谷圭教授)と葛飾医療センター(診療部長:行木太郎准教授)もこれまで通り北米ER型救急を提供していきますので、今後とも救急医学講座を、そして慈恵附属4病院の救命救急センターと救急部を、よろしく願いいたします。

### ＊ 最後に

我々救急医学講座のメンバーにとって、本院の救命救急センター化は本当に大きな夢でした。今回の本院救急部の「救命救急センター」の指定実現は、救急医学講座や救急部のメンバーだけでは実現できるものではありませんでした。改めましてご尽力ご協力をいただきました、大学や病院や各診療科や各部署の全ての皆様に感謝申し上げます。また今後とも引き続き本院救急部を、そして本院救命救急センターを、よろしく願いいたします。



救命救急センター入口でのスタッフ集合写真。



大学院医学研究科  
医学系専攻大学院委員会委員長  
生化学講座 講座担当教授  
吉田 清嗣



# 社会人大学院制度と 連携大学院制度について

## はじめに

本学は昭和31(1956)年、私立医科大学として初の大学院を設置し、医学研究科博士課程がスタートした。爾来大学院は、医学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を極めることによる文化の進展への寄与、また専攻分野の研究指導者養成の中心的役割を担ってきた。その対象は主に医学部卒業生であるが、昭和60(1985)年度以降抜本的な改革に着手し、平成20(2008)年度には社会人大学院制度、平成29(2017)年度には連携大学院制度を創設し、医・歯学部卒業生以外にも幅広く門戸を開くとともに多様な背景を持つ学生が、共通・選択カリキュラムからなる柔軟で自由度の高い教育プログラムを学修する現在の姿へと変遷している。本項では大学院の中で、必ずしも周知されているとは言い難い社会人大学院制度及び連携大学院制度について概説したい。

## 社会人大学院制度とは

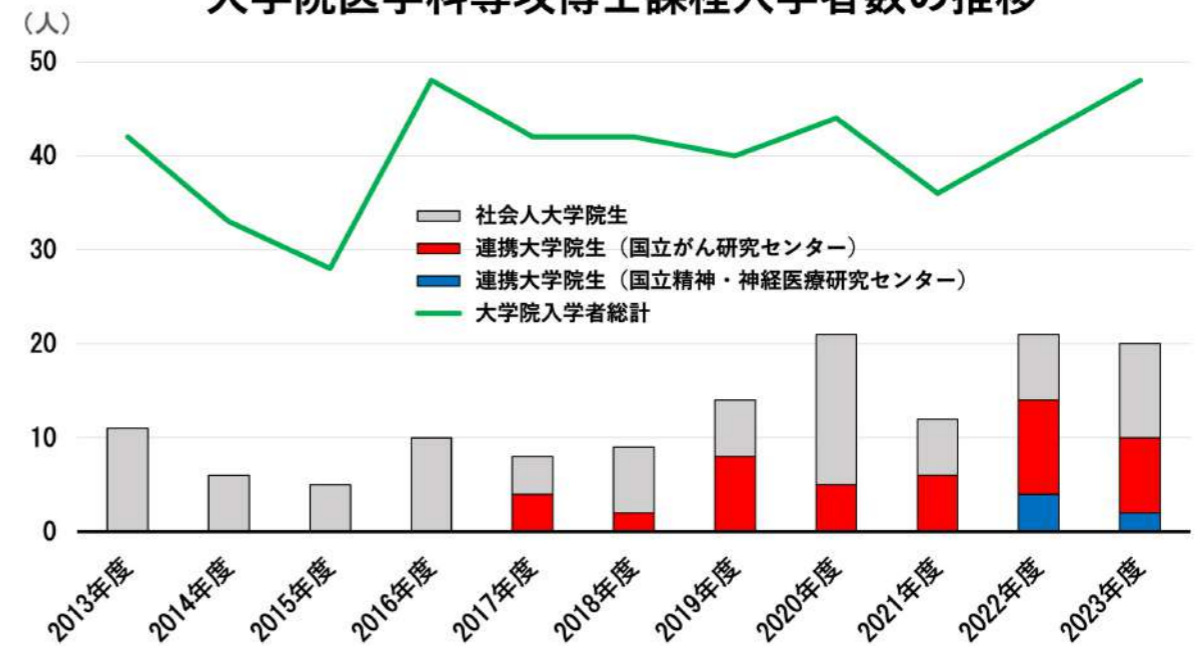
医学研究科医学系専攻博士課程では、平成20(2008)年度より「働きつつ大学院に就学する人」に対して、教育上の特別な配慮を行う措置を開始した。これは、大学院設置基準第14条に定められた教育方法の特例「教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」を適用するものであり、医療・教育・研究機関・民

間企業等に勤務しており、入学後も在職のままで就学を行う方が対象となる。なお本学附属病院に勤務する職員は対象となるが、医師を含めた本学教員は対象外である。入学試験では、一般選抜で実施される試験と併せて、社会人としての実務経験に立脚した研究実践能力や思考力、探求心、社会性などが備わっているかを評価している。教育プログラムは、社会人でも勤務後に大学院に通える昼夜開講制を導入しており、単位取得に配慮してきた。さらに令和2(2020)年からの新型コロナウイルス感染症蔓延による影響で、カリキュラムの多くを対面講義からe-ラーニングによるオンデマンド講義に切り替えることとなった。結果として、特に時間的制約の多い社会人大学院生の学修効果が上がり、効率的かつ積極的な単位取得に繋がることが判明した。そこで今後のポストコロナへの対応として、講義系カリキュラムは引き続き原則としてオンデマンド講義による授業とし、演習・実習系カリキュラムは原則対面授業にすることで、学修効果の最大化を図っていきたくと考えている。

## 連携大学院制度の創設

本学と国立がん研究センターは従前からその立地特性を活かして、医療連携による相互補完、様々なチャンネルによる人事交流や共同研究などが盛んに行われており、平成27(2015)年に医療・教育・研究などに関わる連携・交流を促進する包括協定を締結した。私は松藤学長と共に、大学院と研究に関する連携推進を担当しており、その成果の一つが連携大学院制度の創設で

## 大学院医学科専攻博士課程入学者数の推移



ある。この制度では、国立がん研究センターの職員が本学の社会人大大学院生として、国立がん研究センターで臨床などの業務に従事しながら、センター内で研究指導を受けることができる。前述のオンデマンド講義の拡充により、必要単位の全てを在宅で取得することも可能になっている。おかげさまで本制度の開設以来、連携大学院入学希望者は当初の想定を上回る順調な伸びを示している(図)。その理由として、他学の連携大学院と比較して自由度が高く魅力的なカリキュラムに加え、低廉な学費や大学院研究助成金の交付など様々なサポートの充実があると推察する。学位取得者も順調に輩出しており、この成功が呼び水となって国立精神・神経医療研究センターとも教育・研究の連携協定を締結し、令和3(2021)年度から同様の連携大学院制度を開始した。

## 社会人大大学院の課題

働き方改革に伴い、労働時間の短縮や就業形態の柔軟化が進んでおり、これは医学・医療の現場でも例外ではない。一方で技術革新は驚くべきスピードで加速しており、社会人のリスキリングを見据えた再教育の需要は高まっている。そのような視点からも社会人大大学院は魅力的な制度であり、本学医学研究科医学系専攻博士課程では積極的な推進を図ってきた。一方で社会

人大大学院生は、その特性から研究活動の実態把握が容易ではなく、大幅に研究が遅滞しているケースが見られる。就労と研究との兼ね合いも含め、研究指導教員の果たす役割は重く、適切な指導体制の点検・評価など、取り組むべき課題は多い。また在職に起因する研究へのモチベーション低下など、介入困難な事案も少なくないことが想定され、定期的なフィードバックとその顕在化など何らかの対策が必要であろう。しかし研究はそもそも探究心に導かれた自由度の高い知的活動であり、行きすぎた監視・管理はそのフィロソフィーに反している。今後もあるべき姿を大学院委員会での議論を通じて模索していきたい。

## おわりに

社会人大大学院制度及びその一環である連携大学院制度について概説した。本学大学院では社会のニーズに応じた幅広い専門知識・技能を習得することで、医学・生命科学分野での研究者、研究マインドを持った専門医のみならず、広範な医学・生命科学分野に携わる職業人の養成を通じて「病に苦しむ人を救う」ことを目的としている。あくまでも学位取得を前提とした上で、研究活動を通じてこの目的に貢献していただく場として、社会人大大学院制度の積極的な利活用をお勧めしたい。



総合医科学研究センター  
基盤研究施設 教授  
山澤 徳志子



# 悪性高熱症を単一細胞レベルで再現することに世界で初めて成功!

～吸入麻酔薬や筋弛緩薬投与後の体温上昇メカニズム解明へ期待～

## はじめに

骨格筋の収縮は、筋線維の細胞膜に発生する脱分極（活動電位）がT管膜にあるジヒドロピリジン受容体（DHPR）に伝わり、筋小胞体膜にある1型リアノジン受容体（RyR1）からカルシウムイオン（Ca<sup>2+</sup>）が放出され、収縮蛋白質の相互作用により引き起こされます（図1上段）。この一連の過程を興奮収縮連関と呼んでいます。RyR1は約5千個のアミノ酸からなる単量体が4量体を形成した蛋白分子で、Ca<sup>2+</sup>誘発性Ca<sup>2+</sup>放出（Ca<sup>2+</sup>-induced Ca<sup>2+</sup> release; CICR）の特性を持つ超巨大Ca<sup>2+</sup>放出チャネルです。RYR1遺伝子の変異は、悪性高熱症（Malignant hyperthermia; MH）や筋力低下を特徴とするセントラルコア病等の重篤な筋疾患を惹き起こすことが知られており、RYR1遺伝子解析により300種類以上の変異が報告されています。MHは、ハロタンやイソフルランなどの吸入麻酔薬や脱分極性筋弛緩薬によって誘発され筋収縮が亢進して急速に体温が上昇する麻酔合併症の一つです。MH関連変異は、CICRを過剰に活性化することで筋小胞体から大量のCa<sup>2+</sup>放出を引き起こすと考えられています（図1上段右）。MHの発生頻度は全身麻酔症例のうち数万人に1人と稀ですが、一旦発症すると迅速な治療が行われない場合は致死的となります。現在のところ、MH症状を改善するために承認されている唯一の治療薬はダントロレンです。

## 新規悪性高熱症モデル動物 (RYR1-R2509C マウス)

悪性高熱症のメカニズムを理解するために、MHモデル動物は有用なツールになります。近年の遺伝子改

変マウスの作成技術の進歩により、RYR1遺伝子に変異を持つMHモデルマウスの系統が報告されています。私達はRYR1遺伝子の疾患変異体を過剰発現したヒト胎児腎細胞（HEK293細胞）を用いて機能解析を行い、R2508C変異体は、CICR活性が異常に亢進することを明らかにしました。この結果を踏まえて、ヒトのR2508C変異に相当する変異をRYR1遺伝子に導入したノックインマウス（RYR1-R2509Cマウス）を作出しました。RYR1-R2509Cマウスのホモは胚後期に死亡しましたが、ヘテロは正常に成長し、野生型と同等の繁殖力を持っていました。しかし、ヘテロマウスは、イソフルラン麻酔をかけると、体温が40℃以上に上昇して筋硬直を示し、麻酔開始から90分以内に死亡しました（図1下段：論文1）。一方、野生型マウスでは、イソフルラン麻酔下で体温が上昇することはありませんでした。これらの結果は、RYR1-R2509Cヘテロマウス（以後、悪性高熱症モデル）が吸入麻酔薬で誘発されるヒトのMH症状を再現できることを示唆しております。さらに悪性高熱症モデルの体温上昇は、最初はゆっくりと上昇し、その後39℃付近で急上昇するという二相性の反応を示しました。

## 熱産生を生む正のフィードバック回路：熱誘発性Ca<sup>2+</sup>放出

イソフルラン麻酔による体温上昇速度が高体温ほど増加したことから、悪性高熱症の仕組みのどこかに、熱産生による温度上昇がさらなる熱産生を生む正のフィードバック回路（図4）があると考えました。そこで、この仮説を実験的に検証するために、悪性高熱症モデルから単離骨格筋細胞を準備し、細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度を顕微鏡でモニターする技術と、近赤外レーザー光を対

図1. 骨格筋の興奮収縮連関と悪性高熱症モデル

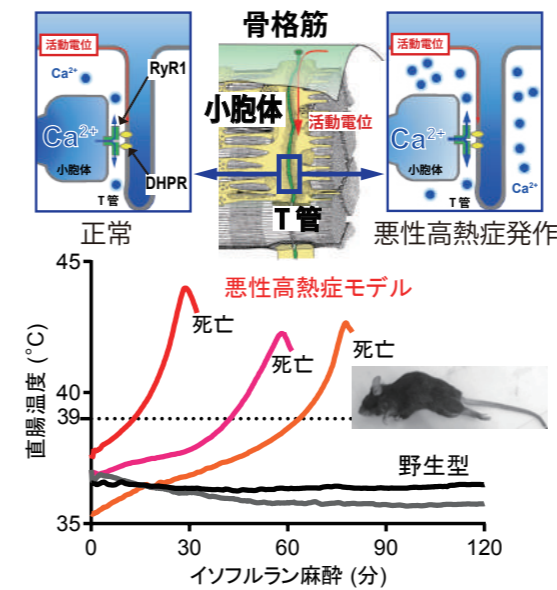
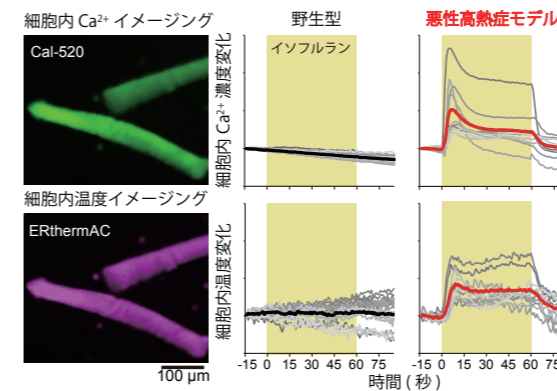


図3. イソフルラン投与後の細胞内温度変化



物レンズで集光することで、細胞周囲の溶液に1秒程度で温度勾配を形成する顕微鏡技術（局所加熱刺激法）を組み合わせて利用しました。その結果、悪性高熱症モデルの単離骨格筋細胞が1秒以内に熱刺激へ応答し、細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度が上昇する様子を観察することに成功しました（図2：論文2）。私達はここで見いだされた熱に反応した新しい現象を「熱誘発性Ca<sup>2+</sup>放出：HICR」と名付けました。

## 細胞温度計測

次に、細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度上昇が実際に細胞温度上昇を引き起こすか否かを明らかにしたいと思いました。そこで、蛍光温度計「ERthermAC」とCa<sup>2+</sup>に対する蛍光指示薬を悪性高熱症モデルマウスの単離骨格筋細胞に適用し、イソフルラン麻酔投与時、細胞内温度と細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度の変化を同時に測定することに挑戦しました。野生型マウスの骨格筋細胞ではイソフルラン麻酔によって細胞内温度、細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度に変化は見られませんが、悪性高熱症モデルでは、イソフルラン

図2. 熱誘発性Ca<sup>2+</sup>放出 (HICR) 機構

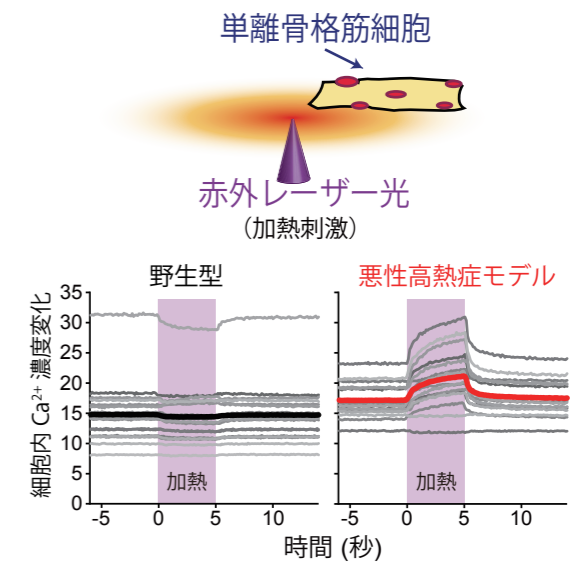
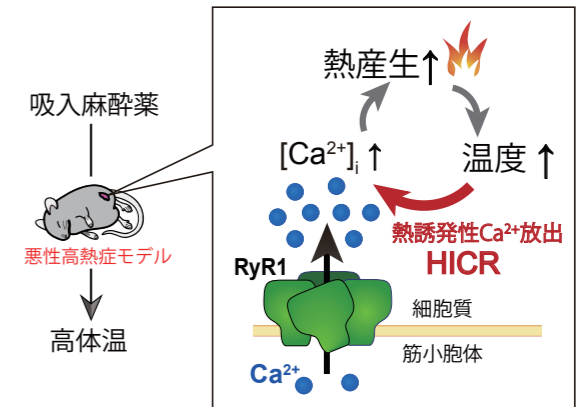


図4. 熱暴走仮説のメカニズム



麻酔によって細胞内温度と細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度がほぼ同時に上昇しました（図3：論文3）。すなわち、イソフルラン麻酔で引き起こされる悪性高熱症を、単一細胞レベルで再現することに成功しました。

## おわりに

悪性高熱症モデルでは、イソフルラン麻酔により、細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度と細胞温度の上昇を示し、この細胞温度の上昇が熱刺激となり、さらなるCa<sup>2+</sup>放出が引き起こされ、悪性高熱症状の悪化が促されることの可能性を示しました（図4）。最後に、悪性高熱症に関連するRYR1遺伝子の変異体は、熱中症との関連も指摘されています。今後は、RYR1遺伝子変異体の熱感受性を低下させる方法を得て、熱中症の発症メカニズムの解明や発症の予測・予防や治療したりする創薬への展開を目指したいと考えています。

論文1 Yamazawa T et al., *Nat Commun*, 12: 4293 (2021)

論文2 Oyama K et al., *Proc Natl Acad Sci U.S.A.*, 119(32): e2201286119 (2022)

論文3 Tsuboi Y et al., *J Gen Physiol*, 154: e202213136 (2022)



整形外科講座 准教授  
藤井 英紀



# ここまできた！ 股関節に対する低侵襲手術 ～鏡視下手術・骨切り術・筋腱温存人工関節～

股関節は体表から深く、最大の長幹骨である大腿骨と骨盤をつなぐ大関節なため、手術を低侵襲に行うことは容易ではありません。当院では、股関節に対する鏡視下手術・骨切り術・人工関節の3つの手術を低侵襲で行なっています。関節鏡を含んだ骨温存手術から人工関節までを一施設で提供できる病院は全国的にも貴重です。その治療と効果についてご紹介いたします。

## 股関節鏡視下手術の有用性(図1)

股関節は球状の大腿骨頭が骨盤の臼(寛骨臼)に深くはまり込んだ構造のため高い安定性を持つ関節です。一方で、運動時に骨同士が衝突(インピンジメント)しやすいため臼蓋縁に付着している関節唇が損傷し軟骨損傷が引き起こされ変形性関節症へと移行すると考えられています。こうした病態は、2003年に大腿骨寛骨臼インピンジメント(FAI: femoro-acetabular impingement)として報告されました。この概念の発表から、股関節鏡を用いた治療は急速に進歩しました。股関節は自由に操作可能な空間が少なく深部にあるため鏡視下手術は困難なものと考えられていましたが、手術器具や手術方法の開発が進み、アンカーを用いた鏡視下関節唇縫合術や、大腿筋膜あるいはハムストリング腱を用いて関節唇を再建する術式(図1c)、また寛骨臼側や大腿骨側の余剰骨を削りインピンジメントを改善させる骨軟骨形成術(図1b, e)が行われるようになりました。これらの治療の良好な中期成績が報告されています。また、将来の変形性関節症の回避が期待され

ています。

歩いていて急に股関節が痛くなり、少しすると嘘のように痛みが消える。胡座や車の乗り降りの時に股関節が痛む。このような症状では股関節唇の損傷が疑われます。単純X線像やCTなどを駆使して形態を良く観察すると、FAIが診断される場合があります。3か月を過ぎても症状が続く場合は、股関節鏡を用いた治療が著効する場合があります。約1cmの切開を2～3箇所用いることで手術は可能であり、非常に低侵襲であることから、早期に仕事やスポーツに復帰できます。今後の更なる発展が期待される医療分野です。

## 骨盤骨切り術(図2)

骨盤側の凹みである寛骨臼が正常よりも浅い場合、大腿骨頭を十分に被覆することができず、これが原因で関節唇の損傷、関節の不安定性が出現し関節軟骨の損傷が進む病態があります。これは寛骨臼形成不全と呼ばれ、寛骨臼の被覆を改善させるための骨盤骨切り術が必要になります。ところが、被覆を良くするために、図2aに示すように丸く骨を切るためには、大きく皮膚を切って、筋腱を骨盤から一度剥離して骨を露出する必要がありますが侵襲がどうしても大きくなります。当院で行なっている寛骨臼移動術(SPO: spherical periacetabular osteotomy)は単径部に7cmの皮膚切開を加えて、腸骨の前方から湾曲したノミで骨をくり抜いて移動させます(図2e)。この時、3Dプリンターで、正確に骨を切るための、ノミにあてがうガイドを作成して手術に臨みます(図

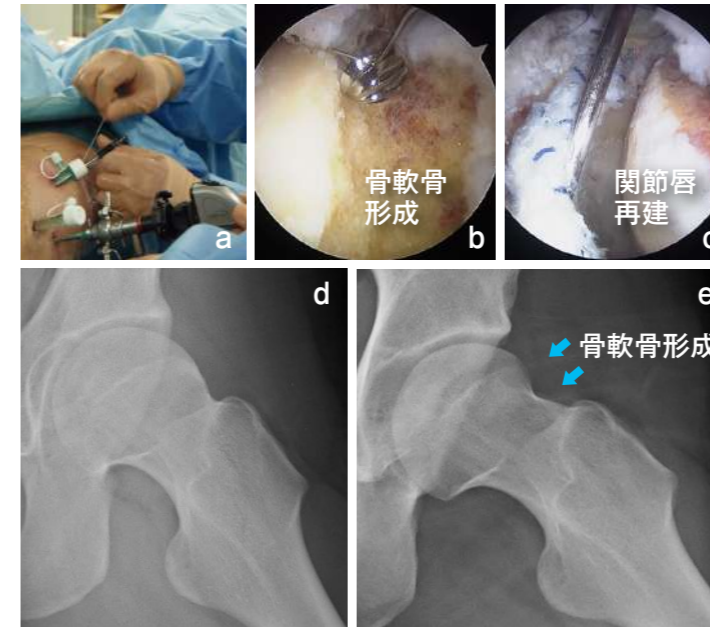


図1. 大腿骨寛骨臼インピンジメント(FAI)に対する関節唇再建術

症例を提示します。32歳男性です。30°、60°、90°Dunn viewすべてでα角が55°以下に改善し関節軟骨が正常であった症例です。両股関節正面像ではピストルグリップ変形がみられますが術後に改善がみられます。

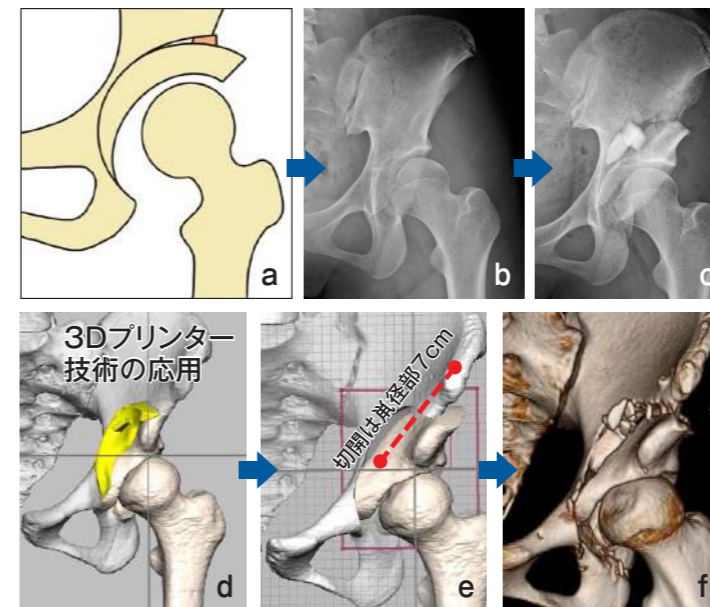


図2. 低侵襲骨盤骨切り  
SPO (Spherical periacetabular osteotomy)

2d)。この術式は、従来の骨切り術よりも筋腱へのダメージが少ないため、歩行能力の再獲得が早いといった優れた治療効果もたらされます。

## 筋腱温存人工股関節(図3)

人工股関節手術の手術方法は、大きく分けて前方進入法と後方進入法があります。当科では、後方進入法を基本として行い良好な成績を得てきましたが、現在では、より低侵襲で合併症の少ないとされている仰臥位前側方進入(ALS: Antero-lateral supine approach)を中



図3. 低侵襲人工股関節置換術  
仰臥位前方進入法(ALS)

心に手術を行なっています。ALSは、筋間からアプローチし筋肉を切らずに手術を行う方法です。そのため、患者さんの手術侵襲が非常に少なく、脱臼のリスクは大きく軽減し、日常生活動作の懸念事項はほとんどないといえるほどになりました(図3c, d, e)。また、ALSでは両側同時手術を行いやすいメリットもあります。術後の入院期間はリハビリを行い約10日前後としています。確実な除痛が得られ、歩行能力を再獲得できるのみならず、スポーツなど高いアクティビティへの復帰も可能となりました。長期成績も大きく向上した人工股関節手術は、安全で満足度の高い手術となっています。



# 看護学科教育・ 研究実務研修に参加して



附属第三病院 看護部 管理師長  
看護学科 臨床准教授  
朝倉 真奈美

2022年5月看護学科臨床准教授を拝命し、2022年9月より7か月間、第三病院看護部を離れ、看護学科教育・研究実務研修に参加しました。研修目的は、①看護学科の教育内容や学生のレディネスを理解し臨床教員の役割を明確にする、②大学院生としてスーパーバイズを受けながら博士後期課程の研究活動を進めることでした。

## 1. 教育活動の方法

看護学科のカリキュラムがどのように作られるかを知るために、カリキュラム委員会の活動に参加しました。また、キャリア支援委員会では教員が行う就職支援の実際をみて、Z世代の若者の特徴やキャリアについての考え方を学びました。

看護基礎教育については、在宅看護学の2・3・4年生の授業・演習・実習に参加し、実習前の学習内容、授業設計、教育評価について理解を深め、学年毎の学生の違いを知ることができました。これらの他、拡大教授会議、教員会議、領域会議、30周年記念行事、入学試験、卒業前トレーニング、実習指導者評価会議、看護学科FD/SD、研究発表会等へ参加させていただきました。

## 2. 学生のレディネスを知る

2年生は実習の場にいるだけで緊張し強い不安を抱えていましたが、実習を積み重ねるにつれ、人とかかわる力は強化されていきました。カンファレンスでは、学生が患者中心の医療に触れ、モデルとなるような看護師に出会った時の心揺さぶられる体験を話していました。学びや感動を現場の指導者へフィードバックする学生もいました。そうした学生の嬉しそうな反応と現場にとって喜ばしい状況を見ることができました。実習というのは学生だ

けが学ぶ場ではなく、現場の看護師の成長の機会になり、学生の反応が看護師にフィードバックされるとやりがいにつながっていることが分かりました。

## 3. 臨床教員の果たすべき役割とは

附属病院に長年勤務する臨床教員は、実習環境のあらゆる状況に精通しています。そこに加えてカリキュラムや学生のレディネスを理解すると、学生にこういう体験をさせたらより深い学びにつながるのではないかと発想が生まれてきます。教員と臨床教員が積極的にディスカッションをすれば、共に学生が成長できる環境を作り上げていくことができると感じました。

まずは臨床教員が率先して教員とコミュニケーションをとり、相互理解するFace-to-Faceの関係を作ることから始めていこうと思います。その積み重ねから、教員と臨床教員、教員と臨床指導者が顔馴染みの関係性になり、実習の場は学生を迎え入れるあたたかい雰囲気居心地のよい場所へ変化していくものと考えています。

研修を終えた今、看護学科の教育と附属病院の双方を理解しているからこそ可能な問題解決を実践しています。実習環境改善のために、自身の強みである調整力や交渉力を最大限に発揮し、看護学科と臨床の橋渡しの役割を果たしていきたいと思っています。

本研修参加に際し、北学科長、諸先生方、小澤看護部長、学事課の皆様をはじめ、多くの皆様にご支援をいただきました。この研修制度がさらに継続発展し、看護基礎教育と臨床の相互交流が深まり、教育体制が充実していくことを願っています。

今回の貴重な学びの機会を頂きましたことに深く感謝いたします。

# PDCから PDCAへ

# 大学評価の基準に沿った 新しい問題点と その改善



東京慈恵会医科大学  
学長補佐  
学校法人 慈恵大学  
内部質保証推進委員会  
委員長  
柳澤 裕之

学校法人慈恵大学は、法人全体の内部質保証推進体制を強化するために、2020年11月に学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会を構築した。この学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会は、学校法人慈恵大学が大学の本務である教育・研究活動を健全な財政の下に支援できるように、附属病院と学校法人慈恵大学の管理運営・財務をも含めて6年間の中長期事業計画と単年度事業計画に基づく自己点検・評価とその改善・向上を推進する役割を担っている。

具体的には、学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会の下に、自己点検・評価委員会 教育・研究会議、4病院長会議、運営・財務会議を設置し、自己点検・評価はまず「各部署である現場」で行い、現場が報告してきた「改善・向上策」を学校法人慈恵大学全体の立場から自己点検・評価委員会 教育・研究会議、4病院長会議、運営・財務会議と学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が俯瞰して、改善・向上策の不足事項を現場に戻すと同時に、必要な「改善・向上策」が確実に実行されるように学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が大学運営会議(教育、研究)、理事会(医療、財務・運営)に進言することで、学校法人慈恵大学全体のPDCAが実践される。

今回、この新しい内部質保証推進システムの下で、大学基準協会 大学評価の基準1～10(下記参照)に沿って2023年度自己点検・評価を行った。今回の自己点検・評価により新たな問題点が抽出された。今後、抽出された問題点を当該部署、部局と協力して改善・向上を図る予定である。

今後も本学の使命を果たすべく教職員が一丸となり鋭意努力を重ねる所存である。

## <参考>

### 大学基準協会 大学評価ハンドブックの基準

- 基準 1 : 理念・目的
- 基準 2 : 内部質保証
- 基準 3 : 教育研究組織
- 基準 4 : 教育課程・学習成果
- 基準 5 : 学生の受け入れ
- 基準 6 : 教員・教員組織
- 基準 7 : 学生支援
- 基準 8 : 教育研究等環境
- 基準 9 : 社会連携・社会貢献
- 基準 10 : 大学運営・財務





薬理学講座  
青木 友浩

臨床医の背景を有する薬理学者として、基礎研究からアンメットメディカルニーズの克服による社会貢献までのシームレスな展開を目指しております。  
私自身は脳血管障害を専門にしており研究を進展させてまいりますが、講座として学内の様々な研究や医療開発のお手伝いもさせていただければと存じます。  
お声かけ頂ければ幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

- 略歴：平成13年 京都大学医学部卒業
- 平成13年 京都大学医学部脳神経外科入局
- 平成17年 京都大学大学院医学研究科博士課程(脳神経外科)
- 平成21年 京都大学大学院医学研究科神経細胞薬理学  
学術振興会特別研究員(PD)
- 平成24年 京都大学大学院医学研究科  
次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点  
特定准教授
- 平成29年 国立循環器病研究センター研究所分子薬理部 室長
- 令和 5年 東京慈恵会医科大学薬理学講座 担当教授

● 出身地：兵庫県

● 趣味・特技：釣り・水泳

2023年4月1日公示



内科学講座呼吸器内科  
荒屋 潤

臨床と研究に真摯に向き合い、physician scientistとしての呼吸器内科医の育成と最良医療の実践を教室の目標に掲げ、呼吸器病学そして慈恵医大発展のため教職員一同で努力し続ける所存です。  
ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

- 略歴：平成 6年 富山医科薬科大学医学部医学科卒業  
同第一内科入局
- 平成14年 富山医科薬科大学大学院医学研究科終了
- 平成16年 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校  
病理科 博士研究員
- 平成19年 東京慈恵会医科大学内科学講座呼吸器内科 助教
- 平成21年 同講師
- 平成26年 同准教授
- 令和 2年 同教授
- 令和 5年 同講座担当教授

● 出身地：富山県

● 趣味・特技：軽登山、空手

2023年4月1日公示



2024年7月、20年ぶりに新紙幣が発行される予定となっています。  
1万円札は、「近代日本経済の父」と呼ばれる渋沢栄一へ変更されます。  
3回にわたり、慈恵大学と渋沢栄一について、ご紹介いたします。

## 慈恵大学と渋沢栄一

学術情報センター 課長 阿部 信一



明治15年(1882)に開院した  
日本で最初の民間慈善病院「有志共立東京病院」

学祖高木兼寛が渋沢栄一と最初に会ったのは、軍医総監時代の明治18年頃で、兼寛を尊敬していた薩摩藩士の伊集院兼常が引き合わせました。その後、兼寛と渋沢が特に親しくなったのは、明治27年(1894年)に渋沢の癌を兼寛が手術して以来のことです。渋沢は明治27年と明治37年の2回、生死にかかわる大病をし、その都度兼寛によって救われ、以来兼寛の仕事を献身的に手伝いました。

明治15年(1882年)から兼寛たちが始めた有志共立東京病院は、いうまでもなく無料の慈善病院であったため、善意の拠出金やバザーの収益、皇室からの恩賜金によって経営されていました。しかし、患者の増加に十分対応できるものではなかったため、ベッドはあるのに入院患者を制限しなければならない状況でした。

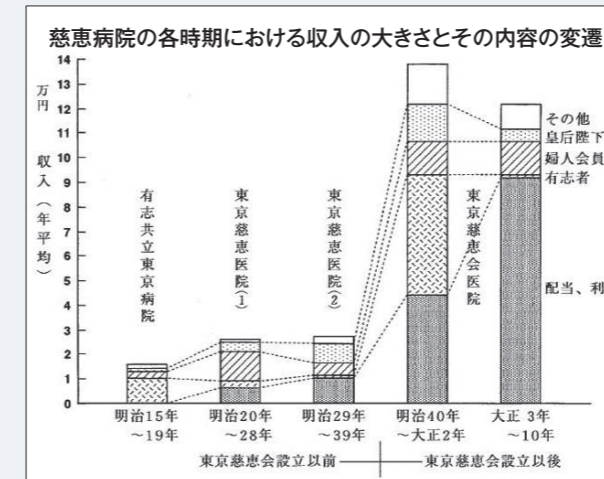
東京慈恵医院の幹事長に就かれていた有栖川宮威仁親王妃慰子殿下は、慈恵病院の改革に熱心に取り組み、明治40年(1907年)、渋沢栄一に東京慈恵医院の相談役兼実業家団体募金委員長を仰せつけられました。同年7月、渋沢の尽力により社団法人東京慈恵会が発足。渋沢は副会長・財務主任に就きました。会長の徳川家達は象徴的な立場であり、実際の運営は渋沢が行ったと言われ、亡くなるまでの24年間、会の運営に献身しました。

東京慈恵会の発足に伴い、東京慈恵医院医学専門学校も東京慈恵会医院医学専門学校と改められ、東京慈恵会と病院と医学校の三位一体関係が確立され、この関係は終戦まで続きました。渋沢によって、東京慈恵会(および病院、医学

校)の財政基盤は改善され、施設拡充もなされるようになり、生理学教室(55坪)、図書館(20坪)、雨天体操場(70坪)、解剖学教室(60坪)、病理学・細菌学教室(160坪)などが次々と建設されました。

東京慈恵会医院医学専門学校は大正10年(1921年)に東京慈恵会医科大学に昇格しますが、これらの諸施設はその昇格のための重要な条件になったものと考えられます。つまりこれらの施設拡充によって、大学としての教育が可能になったのであり、渋沢の功績は慈恵大学の歴史にとって高く評価されるべきでしょう。史料室に残る医学校の卒業アルバムには渋沢の写真が亡くなるまで20年以上掲載されています。

昭和6年(1931年)に渋沢が亡くなった後、孫の敬三が東京慈恵会の役員を継承し、太平洋戦争当時は東京慈恵会の副会長として経営に尽力していました。終戦直後の窮乏と混乱が激しい中、敬三らが出席して東京慈恵会医院の経営に関する会議が行われました。この席上、慈善病院としての存続が困難なことから、有料病院としての経営の提案がなされましたが、これは有志共立東京病院以来の東京慈恵会の使命に反することになるので、病院の経営の一切を大学に任せることが決定しました。このような決断は、若くして日銀総裁、大蔵大臣などの要職を務めてきた渋沢敬三氏のごとき見識をそなえ、かつ慈恵大学に対する深い理解をもつ人物でなければできなかったと言われていました。これにより、慈恵病院は大学の主要な一部として経営され、大学の臨床医学部門として機能することになったのです。



出典:高木兼寛の医学 松田誠 2007

【参考文献】・高木兼寛の医学:東京慈恵会医科大学の源流. 松田誠. 東京慈恵会医科大学 2007.12.  
・高木兼寛伝. 東京慈恵会医科大学創立八十五年記念事業委員会 1965.10.  
・慈恵外史. 東京慈恵会医科大学同窓会 1985.10.



# The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2022年12月～2023年6月

2022年  
12月

## 東京消防庁からの表彰 看護学科学生の人命救助について

看護学科2年生(現3年生)の大植日葵(おおうえ ひまり)さんが、2022年10月24日小田急線狛江駅前で発生した救急事象に際し、警察官と協力して心肺停止状態に陥った女性を心臓マッサージなどの適切な処置により救命した功績で、東京消防庁から感謝状が送られました。その後女性は入院後、無事回復されたとのこと。

大植さんは、入学時オリエンテーションの際の救急蘇生実習や、2年生の授業の経験が役に立ったと話されていました。



写真左から、松藤学長、大植さん、北学科長、柳澤学長補佐

## 2022年度 退任記念講義並びに退任記念懇親会

2023年3月末日をもって定年退任される桑野和善教授(内科学講座・呼吸器内科)による退任記念講義「演題：呼吸器疾患とりモデリング」が1月31日(火)に大学1号館講堂で執り行われました。なお、初山俊彦教授(薬理学講座)の退任記念講義は、都合により中止となりました。

続いて、同じく定年退任される高田耕司教授(国領校自然科学教室・生物学研究室)・馬目佳信教授(総合医学研究センター・基盤研究施設)・敷島敬悟教授(眼科学講座)・三浦靖彦教授(内科学講座・総合診療内科)・坂東興教授(心臓外科学講座)・関晋吾教授(内科学講座・循環器内科)・島田貴教授(内科学講座・腫瘍・血液内科)・中田浩二教授(臨床検査医学講座)より退任の挨拶があり、松藤千弥学長より永年の大学への貢



献に対して感謝の意が表されました。最後に、大学、同窓会、医学科保護者会、医学科学学生会から記念品が贈られ、新旧キャンパスの映像と共に流れた慈恵の歌(学生歌)を聴き入り、退任記念講義は終了しました。

2023年  
1月

1月

## 第14回上智大学・東京慈恵会医科大学 ジョイントシンポジウム開催

遺伝診療部 川目 裕

2023年1月20日(金)に、第14回上智大学・慈恵医大ジョイントシンポジウムが開催されました。このジョイントシンポジウムは、2001年より開催されており、主に倫理的な課題をテーマに、両大学からの関係者の講演と討論で構成され、毎年開催されています。今年は、感染に十分な留意を行い、両大学の学長のご参加のもと、対面にて本学を会場に開催されました。



今回のテーマは、「新型コロナウイルス感染症とELSI(倫理的・社会的課題)」として、4名の演者による講演と総合討論が行われました。講演では、「ポストCOVID-19における新しい医療様式の倫理的分析」、「積極的疫学調査から捉えた人々の暮らしと倫理的課題」、本学からは、附属病院看護部の宮田七重師長より「感染隔離環境下での看護実践」、麻酔科学講座、ICUの部長である藤井智子教授より「重症COVID-19の診療とケア」という講演がありました。本学附属病院は、2020年からコロナの感染のある患者の受け入れを行っていました。初めは未知の感染症であったコロナの感染者へのケアと治療に関して、医療者としての使命感と、周囲からの偏見と差別的な視線、制限のある診療などが紹介されました。その葛藤とジレンマの中で、患者のみならず常に周りの仲間にも配慮した診療の実践の講演があり、当日の参加者に大きな感銘を与えました。



また、同日午後6時より、東京プリンスホテル2階「プロビデンスホール」で記念懇親会を3年ぶりに開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、食事と酒類の提供はせず行いました。栗原敏理事長の乾杯のご発声と

共に会が開会し、所属部署、学生会、看護学科の各代表者から花束贈呈が行われました。退任教授を囲んで談笑の輪が会場全体に広がる中、閉会の辞と退任教授への拍手をもって閉会となりました。



1月

## 総合医科学研究センター 2022年度退任記念講演

2023年1月17日(火)、「総合医科学研究センター2022年度退任記念講演」が大学1号館講堂にて開催されました。講演会当日は2022年度に退任された秋山暢丈講師(基盤研究施設)より退任の挨拶が行われ、馬目佳信教授(基盤研究施設長)より「脳腫瘍から医工連携へ基盤研を支えてくれた多くの仲間たち」と題して退任記念の講演をいただきました。

講演会は総合医科学研究センター長である岡野ジェイムス洋尚教授の司会で進行され、栗原理事長・松藤学長をはじめ多くの関係者の方々にお集まりいただきました。



2月

## 第1268回 成医会例会 『医師として、小説家として』

医師・小説家 知念 実希人氏

2023年2月6日(月)、第1268回成医会例会が、2号館講堂で開催された。今回は、本学平成16年卒、医師であり小説家の知念実希人氏をお招きし、「医師として、小説家として」と題して、二足の草鞋を履く自身の活動や経験についてご講演いただいた。最後に松藤成医会会長より謝辞が述べられた。4機関テレビ会議システムのほか、eラーニングを利用した動画配信も実施され、多くの職員が視聴した。



2月

## ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 ～KANEHIROプログラム:病気を診ずして病人を診よ～ キックオフシンポジウム開催

2023年2月18日に本学と宮崎大学が連携して取り組む文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点事業」のキックオフシンポジウムが宮崎市内で開催された。シンポジウムには、慈恵側からは横尾隆副学長が、宮崎側からは鮫島浩大学長、重黒木清県福祉保健部長をはじめ多くの関係者が出席し、総勢217名の参加者で盛大に開催された。

本事業では地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点を置いた臨床実習の整備と、VR(バーチャルリアリティ)技術などを応用したシミュレーション教育も展開しており、慈恵側から教材開発を担う本学の取り組みについて救急医学講座武田聡と万代康弘が発表、今後の事業推進に向けて議論をおこなった。

今後の事業展開に是非ご期待下さい。

文部科学省 大学教育再生戦略推進費  
ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

宮崎大学 University of Miyazaki  
東京慈恵会医科大学 THE JIKEI UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

地方と都市の地域特性を補完して  
地域枠と連動しながら広がる医師養成モデル事業  
～ KANEHIROプログラム:病気を診ずして病人を診よ～

キックオフ! 一般公開シンポジウム  
現地会場とオンラインのハイブリッド形式

2023年2月18日(土)  
参加無料 13:30～16:30 (13:00開場)  
MRTmicc ダイヤモンドホール  
宮崎市大通 4丁目 6-3 TEL:0985-22-1111

本事業では、診療参加型臨床実習に地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおく専門コースを新設し、VR(バーチャルリアリティ)技術を活用したシミュレーション教育も展開します。新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わず適切な医療を実践できる医師を養成し、医師不足や医師偏在の解消に資する教育モデルの確立を目指す取り組みをご紹介します。

現地会場:先着200名  
オンライン参加=申込締切2月15日(水)  
10名以上でご参加の団体・学校等は2月15日(水)までに下記、事務局へご連絡をお願いします。  
会場駐車場には限りがございます。公共交通機関の利用に、ご協力をお願いします。

Googleフォームで事前にお申込ください。  
<https://forms.gle/XMIXR5bvWp1T3h818>





3月

2022年度  
医学部卒業式

2023年3月4日(土)午後1時30分より、2号館講堂において第98回医学科・第28回看護学科卒業式を執り行いました。本年度は、卒業生1名につき保護者1名の参列が叶い、4年ぶりに保護者同席のもと卒業生医学科110名、看護学科60名の門出を祝うことができました。

冒頭、卒業生一人ひとりの氏名が読み上げられ、松藤千弥学長より卒業生を代表して川口幸太郎さん(医学科)、平岡新菜さん(看護学科)へ卒業証書(学位記)が授与されました。

続いて、慈大賞が河村明良さん(医学科)、加藤朱さん(看護学科)に、同窓会賞が下田まやさん(医学科)、網野さくらさん(看護学科)に、保護者会長賞が岸田翔大さん(医学科)、長谷川彩奈さん(看護学科)に授与されました。

その後、松藤千弥学長より式辞を、栗原敏理事長より



祝辞をいただき、在学生代表の安田真ゆさん(医学科)、鳥居宏美さん(看護学科)による送辞があり、卒業生代表の河村明良さん(医学科)、加藤朱さん(看護学科)より謝辞が述べられました。最後に、慈恵の歌「曙満ち来る」が流れ、参列者は静かに聴き入り厳かな雰囲気に包まれ卒業式は閉会しました。



3月

## 産学官連携セミナー

—島津製作所との包括連携協定による成果報告を含めて—

## 東京慈恵会医科大学

# 産学官連携セミナー

—島津製作所との包括連携協定による成果報告を含めて—

## 2023年3月15日 水 16:00-18:45

リアル開催 会場: 東京慈恵会医科大学 1号館3階講堂

Zoom ウェビナーでも配信いたしますので、Web参加の方は以下のURLからご入室ください。  
<https://us06web.zoom.us/j/83975175925?pwd=TnVsS0ZlTWptWWVlVSMlZWVWkxWkE5UT09>  
 ミーティングID 839 7517 5925 パスコード 891476 ※適宜、入室可能ですので、ご興味のあるセッションにご参加ください。

プログラム	
16:00-16:05	開会の挨拶 岡部正隆 (東京慈恵会医科大学 解剖学講座教授 研究担当副学長)
16:05-16:20	全体説明 慈恵大学での研究開発・社会実装への取り組み 福井亮 (東京慈恵会医科大学 研究推進課URA 腎臓・高血圧内科 講師) 島津製作所が目指すヘルスケアへの取り組み ~研究開発から社会実装へ~ 川名修一 (島津製作所 経営戦略室 ヘルスケア事業戦略ユニット ユニット長)
16:20-16:50	検体検査 マルチプレックス検査時代における医工連携の重要性 越智小枝 (東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授) 質量分析計を用いた血液検査と画像診断による認知症検査の仕組み作り 竹内司 (島津製作所 分析計測事業部 ライフサイエンス事業統括部 戦略企画G グループ長)
16:50-17:20	細胞・再生医療 本学での創薬研究~基礎研究、実用化研究、社会実装まで~ 藤田雄 (東京慈恵会医科大学 エクソソーム創薬研究講座/内科学講座呼吸器内科 講師) 再生・細胞医療・遺伝子治療における培養条件最適化の取り組みについて 江連徹 (島津製作所 分析計測事業部 ライフサイエンス事業統括部 細胞事業開発室 室長)
17:20-17:40	コーヒーブレイク
17:40-18:10	医用画像診断 エッジコンピューティングと連合学習を利用した、複数医療機関による医用画像AI機器開発システムの構築について 中田典生 (東京慈恵会医科大学 人工知能医学研究部/放射線医学講座) 医療機器へのAI技術の活用について 西野和義 (島津製作所 医用機器事業部 技術部 ソリューション開発ユニット アプリケーションG マネージャー)
18:10-18:40	健康・医療情報システム デジタルヘルスケアの現状と実用化との向き合い方 竹下康平 (東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 先端医療情報技術研究部 講師) 日常データと骨ドックデータを活用した骨粗鬆症の予防・早期発見に向けた取り組み(健康増進プラットフォーム)について 中村俊晶 (島津製作所 経営戦略室 ヘルスケア事業戦略ユニット 係長)
18:40-18:45	閉会の挨拶 稲垣史則 (島津製作所 常務執行役員)

お問い合わせ 東京慈恵会医科大学研究推進課 URA部門 TEL: 03-5400-1200 内線 2538 E-mail: ura@jikei.ac.jp  
 島津製作所 経営戦略室 ヘルスケア事業戦略ユニット TEL: 075-823-2537 E-mail: hc\_unit@group.shimadzu.co.jp

2023年3月15日に株式会社島津製作所と共催で産学官連携セミナーを開催した。

当セミナーは、2021年12月交わした包括連携協定による協業連携活動の成果報告会を含めたもので、岡部副学長の開会の挨拶に始まり、本学と島津製作所の社会実装への取り組み、検体検査、細胞・再生医療、医用画像診断、健康・医療情報システムをテーマに取り上げ、両者が講演した。

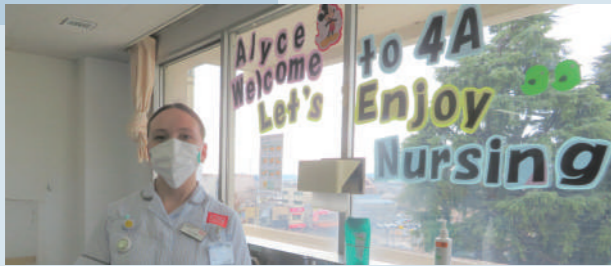
更にコーヒーブレイクを設け、各テーマ毎に島津製作所の社員と本学の研究者間で情報交換を行った。

当日は利便性を配慮しWebでも参加できるようハイブリッド形式で開催し、約200名の参加者のもと盛会のように終えた。包括連携協定をもとに相互の強みを活かして、協業連携を強化することで研究成果の社会実装を加速化されることが望まれる。



3月

## SPEECH BY KING'S STUDENTが 開催されました



2023年3月17日に看護学科にて、附属第三病院と慈恵大学病院で計4週間の実習を行ったKings College London交換留学生によるスピーチ「SPEECH BY KING'S STUDENT」が行われました。

Adult Nursing courseの学生は、英国と日本の違いについて、日本の病院は、病床数が少なく静かで、患者は高齢でも自立している点であり、共通点は、患者中心のケアや多職種連携に重点を置いていることだと学びを述べました。

Children's Nursing courseの学生は、看護の手技や疾病管理のガイドラインは英国と共通しているが、英国では稀な川崎病の患者に会う等、患者の疾病が異なっていることや英国では保護者が病棟に宿泊するが、日本では面会である点が異なること等を発表しました。

看護学科では、2016年より、英国King's College LondonのFlorence Nightingale Faculty of Nursing, Midwifery & Palliative Careとの間で、看護学生の交換留学制度(選択実習)が開始され、互いの教育制度を学ぶ機会となっています。2022年度は、看護学科4年生1名が3週間、英国で実習を行いました。



3月

## 耳鼻咽喉科 大村和弘医師が、カンボジア国王より 最高位モニサラポン大十字勲章を受章



授章式の様子 手術の様子(提供:安永ケンタウロス)



2023年3月18日のカンボジア耳鼻咽喉科学会総会にて2008年より大村和弘医師(附属病院・耳鼻咽喉・頭頸部外科講師)の行っている15年にわたるカンボジア国に対する医療ボランティア活動及び、現地耳鼻咽喉科医師の本学への留学支援を含めた手術教育活動と成果が評価され、カンボジア王国で1905年から続く由緒ある「モニサラポン大十字章(The Royal Order of Monisaraphon Knight Grand Cross)」をカンボジア国王よりいただきました。今回は、外国人に贈られる中で最高位となる大十字章(Knight Grand Cross)になります。

2023年である本年はカンボジアで初となる内視鏡下頭蓋底手術を現地の医師と一緒に無事に手術を行ないました。

4月

## 新入職員就任式

517名の新入職員が、新しい一步を踏み出す

2023年4月1日(土)午前10時より2号館講堂において新入職員就任式が挙行されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策として会場の分散、時間短縮のうえでの挙行となりましたが、出席した新入職員の表情は一様に晴れやかでした。式典では栗原理事長より告辞を賜り、その内容はテレビ会議システムを用いて各附属病院に配信されました。

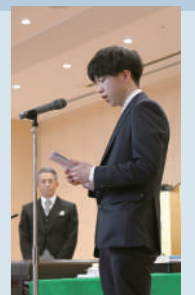
当日は期待と緊張の入り混じった雰囲気の中厳かに進められ、517名の新入職員が喜びとともに大きな期待と希望を胸に慈恵大学での第一歩を踏み出す門出となりました。



4月

## 2023年度 医学部入学式

過去3年、中止あるいは規模を縮小した入学式を盛大に挙行



2023年4月6日(木)午後2時より西新橋校2号館講堂において医学科・看護学科の入学式を執り行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、過去3年間は入学式を中止あるいは大幅に規模を縮小して開催してきましたが、今年度は入学生と保護者(入学生1名につき2名以内)および一部の教職員が参列し、コロナ禍前にように盛大に挙行することができました。

冒頭、松藤千弥学長より医学科105名、看護学科60名の入学許可が宣言され、入学生を代表して杉田誠さん

(医学科)、山本佳苗さん(看護学科)より宣誓が述べられました。

続いて、松藤千弥学長より告辞を、栗原敏理事長より祝辞をいただき、松藤千弥学長より入学生代表の白澤周さん(医学科)、小島えりもさん(看護学科)に大学および保護者会からの記念品が贈呈されました。

その後、心温まる祝電が披露され、終わりに慈恵の歌「曙満ち来る」が流れる中、晴れやかな空気に包まれ入学式は終了しました。



6月

## 港区および港区教育委員会との 包括的連携協力に関する基本協定締結

2023年6月6日に港区および港区教育委員会との包括的連携協力に関する基本協定締結式が執り行われました。本学は、港区唯一の医科大学として、これまでも港区、港区医師会・歯科医師会・薬剤師会、あるいは地域の産業医や経済団体と連携して、港区の住民や在勤・在学者に対する医療サポート・情報発信を続けてきました。港区との具体的な連携事業としては、2018年から港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」の指定管理者として、がん患者さんとそのご家族が住み慣れた地域で安心して療養ができるような支援や情報提供を行っています。その他、乳幼児健診、小児救急、新型コロナウイルス感染症対策、災害医療、アレルギー対策、児童・生徒たちに対するがん教育や救命処置の講習なども実施してきました。これらの連携事業を通して醸成された港区ならびに港区教育委員会との信頼関係が基盤となり、この度、港区からの提案で前記協定を締結することになりました。本年度は、新規連携事業も計画しており、さらに幅広い連携を行っていく予定です。



左から丸毛理事、栗原理事長、武井港区長、浦田港区教育長、笠松みなと保健所長、吉野学校教育部長

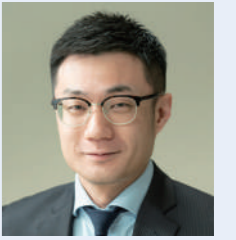
### 2023年 主な行事予定表

8月 6日(日)	看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月 9日(水)	医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
8月10日(木)	医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
8月20日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
9月 9日(土)	卒後50周年大学招待懇親会(昭和47年卒 於:東京プリンスホテル)
9月21日(木)	東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム(大学1号館講堂)
10月 7日(土)	同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から2号館講堂)
10月12日(木)	第140回成医会総会
10月13日(金)	第140回成医会総会
10月14日(土)	大学休業日
10月21日(土)	卒後50周年大学招待懇親会(昭和48年卒 於:東京プリンスホテル)
10月28日(土)	第119回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
10月29日(日)	看護学科第3回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
11月11日(土)	学祖墓参(午後2時30分 2号館前集合)
11月18日(土)	医学科保護者会秋期総会(午後3時45分から大学1号館講堂・2号館講堂)
12月27日(水)	教授・准教授懇談会(午後6時からホテルオークラ)

### 新たな 組織 の紹介

## 総合医科学研究センター 次世代創薬研究部

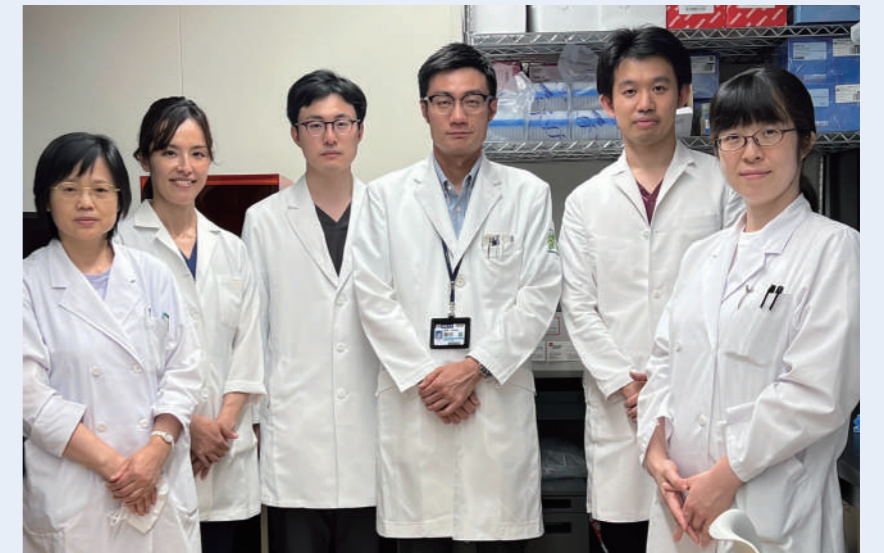
次世代創薬研究部  
講師 藤田 雄



## エクソソームや核酸を標的とした医学研究で 医療にイノベーションを起こす

Unmet medical needsを解決するための医学研究を目指す。

これまでの産学連携講座エクソソーム創薬研究講座での研究活動のさらなる発展を目指し、2023年4月より総合医科学研究センターに次世代創薬研究部が開設されました。エクソソームは、全ての細胞が分泌するナノレベルの小胞顆粒であり、RNA、DNAなど核酸やタンパク質などの遺伝情報を体内の細胞間で送受することで、生命の恒常性維持やさらには病気の進行にも関与していることが分かっています。これまでの私達の研究成果では、このエクソソームの内包物を解析することによるがん、感染症、線維化などの疾患バイオマーカーの同定および実用化、さらにエクソソームそのものを医薬品として創薬開発する研究を展開して参りました。特にエクソソームを医薬品として開発する研究成果は、様々な連携企業の協力を得ながら日本で初めてとなる高純度製造法の構築や品質規格管理を行い、日本におけるアカデミア発の新規治療モダリティの創出を牽引し、ボトムアップ型の研究実例として本学の充実した産学連携支援体制や研究開発力の高さを示すことができました。



著者と次世代創薬研究部メンバー

次世代創薬研究部では、これらの研究基盤の流れを汲みながら研究領域や対象疾患をさらに広げ、学内の様々な臨床・基礎講座および国内外のアカデミアおよび企業と連携を行いつつ、がん、感染症、代謝疾患、神経疾患、血管疾患など様々な疾患に焦点を置き、本学だからできるエクソソームメディスンの確立に尽力して参ります。分子細胞学的な研究手法として、単一細胞レベルでのトランスクリプトーム解析の理解を通じて、どのような細胞が病態に関与し、また治療効果を持つのか、それらの分泌するエクソソームの解析研究を進めます。また細胞におけ

る生命科学の現象に着目しつつ、deep learning(深層学)などの最新技術を応用しながら、企業連携を通じた社会実装と医療イノベーションの創出を目指して参ります。さらに学内における次なるシーズの開発支援、および若手研究者の育成にも注力して参ります。臨床現場におけるunmet medical needsを解決するために、何から始めれば良いか、どのような研究計画や企業連携が必要か、不安に思われる学生さんや先生方も多いと思います。患者さんに届ける新しい医療と一緒に考えて参りましょう。どうぞよろしく願い申し上げます。



2022年12月から2023年6月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

## 大学公報

## 行事

●故 新村 眞人名誉教授の「偲ぶ会」が令和4年12月17日(土)に執り行われた。

●高田 耕司教授の退任記念講義が、1月21日(土)午後3時より看護学科1階 大講堂において行われた。

●桑野 和善教授の退任記念講義が、1月31日(火)午後3時より大学1号館講堂(3階)において行われた。

●慈恵第三看護専門学校・慈恵柏看護専門学校卒業式が次の通り挙行された。

2023年3月10日(金)	
慈恵第三看護専門学校	47名
慈恵柏看護専門学校	64名

●東日本大震災発生十二年となる3月11日における弔意を表する為、2023年3月11日(土)弔旗を掲揚し、午後2時46分を期して黙とう1分間を実施した。

●慈恵第三看護専門学校・慈恵柏看護専門学校入学式が次の通り挙行された。

2023年4月4日(火)	
慈恵第三看護専門学校	35名
慈恵柏看護専門学校	70名

●2023年度医学科・看護学科の入学式が次の通り挙行された。

2023年4月6日(木)	
医学科	105名
看護学科	60名

●5月1日(月)は、本学創立記念日につき、休業とする

## 公示

## ●2022年12月1日

附属病院 歯科は、歯科口腔外科に名称変更する  
鐘ヶ江 裕美特任教授に、教授を命ずる  
小笠原 洋治准教授に、教授を命ずる  
原田 徹講師に、准教授を命ずる

## ●2022年12月1日

菅嶋 浩一営繕員(附属第三病院管理課)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰された。

## ●2023年1月1日

内山 幹講師に、准教授を命ずる  
鳥巢 勇一講師に、准教授を命ずる  
的場 圭一郎講師に、准教授を命ずる

## ●2023年1月26日

芝田 貴裕教授に、慈恵第三看護専門学校長を命ずる(就任年月日 2023年4月1日)

## ●2023年2月1日

園生 雅弘氏に、客員教授を委嘱する  
小野 賢二郎氏に、客員教授を委嘱する

## ●2023年3月1日

櫻井 結華准教授に、教授を命ずる  
谷口 由枝氏に、教授を命ずる  
政木 隆博准教授に、教授を命ずる  
名越 智古講師に、准教授を命ずる  
越智 小枝氏に、附属病院中央検査部診療部長を命ずる

## ●2023年3月31日

寄附講座 環境アレルギー学講座は組織を解消する  
桑野 和善教授は、定年により職を解く  
初山 俊彦教授は、定年により職を解く  
高田 耕司教授は、定年により職を解く  
馬目 佳信教授は、定年により職を解く  
敷島 敬悟教授は、定年により職を解く  
三浦 靖彦教授は、定年により職を解く  
坂東 興教授は、定年により職を解く  
関 晋吾教授は、定年により職を解く  
島田 貴教授は、定年により職を解く  
中田 浩二教授は、定年により職を解く

## 大学公報

## 公示

## ●2023年4月1日

大学 総合医科学研究センター 次世代創薬研究部を設置する

大学 総合医科学研究センター プロジェクト研究部を設置する

大学 総合医科学研究センター 支援部門 細胞加工施設(JIKEI-CPF)は大学 総合医科学研究センター 細胞加工施設(JIKEI-CPF)に組織を再編する

附属第三病院に慈恵第三健康推進センターを設置する

附属柏病院に災害対策 災害派遣医療チーム(DMAT)を設置する

附属柏病院に集中治療部を設置する  
伊藤 洋氏に、葛飾医療センター名誉院長の称号を贈る

岡崎 史子氏に、客員教授を委嘱する

河野 修三特任准教授に、客員教授を委嘱する

欠畑 誠治氏に、客員教授を委嘱する

熊谷 雄治氏に、客員教授を委嘱する

青木 友浩氏に、薬理学講座担当教授を命ずる

荒屋 潤教授に、内科学(呼吸器内科)講座担当教授を命ずる

島田 貴氏に、臨床専任教授を命ずる(任命期間 2023年4月1日～2026年3月31日)

関 晋吾氏に、臨床専任教授を命ずる(任命期間 2023年4月1日～2026年3月31日)

橋木 修志氏に、教授を命ずる

中田 典生准教授に、教授を命ずる

矢野 文章准教授に、教授を命ずる

小川 匡市特任准教授に、教授を命ずる

戸谷 直樹准教授に、教授を命ずる

杉本 紗里講師に、准教授を命ずる

黒部 仁講師に、准教授を命ずる

斎藤 元章講師に、准教授を命ずる

万代 康弘講師に、准教授を命ずる(特任期間 2023年4月1日～2026年3月31日)

行本 太郎講師に、准教授を命ずる(特任期間 2023年4月1日～2026年3月31日)

金久保 愛子氏に、看護学科准教授を命ずる

島田 貴氏に、総合健診・予防医学センター長を命ずる

南井 孝介氏に、葛飾医療センター循環器内科診療部長を命ずる

小笠原 洋治氏に、附属第三病院中央検査部診療部長を命ずる

的場 圭一郎氏に、附属柏病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療部長を命ずる

吉田 博氏に、附属柏病院総合診療部診療部長代行を命ずる

吉田 博氏に、附属柏病院放射線部診療部長代行を命ずる

月永 真太郎氏に、附属柏病院内視鏡部診療部長代行を命ずる

岩本 雅美氏に、附属柏病院病院病理部診療部長代行を命ずる

## 2023年度 互助会役員

会長 谷口 郁夫(専務理事)

役名	甲種役員(職員側)	乙種役員(大学側)
副会長	滝川 祐(附属病院)	加藤 一人(法人)
幹事	佐野 真一(附属病院)	川久保 孝(附属病院)
委員	佐々木 晋(附属病院)	山本 裕康(大学)
〃	横山 亮(葛飾医療センター)	菊地 譲(法人)
〃	高橋 真一(葛飾医療センター)	相曾 好司郎(大学)
〃	友野 義晴(第三病院)	玉上 淳子(附属病院)
〃	黒田 祐規(第三病院)	横山 秀彦(附属病院)
〃	鈴木 三千代(第三病院)	伊藤 敬夫(葛飾医療センター)
〃	原口 晋平(柏病院)	峰 隆志(第三病院)
〃	鈴木 亮平(柏病院)	相馬 陽一(柏病院)
監査	藤井 武(附属病院)	濱 裕宣(附属病院)

2023年4月1日現在



大学公報

公示

職員(管理職)人事を下記の通り命ずる

等級	氏名	辞令文
1	九等級 林 由美	十等級に任ずる 附属柏病院看護部部長を命ずる
2	九等級 濱 裕宣	十等級に任ずる 附属病院栄養部部長を命ずる
3	九等級 山下 正和	葛飾医療センター看護部部長を命ずる
4	九等級 田村 宏美	葛飾医療センター看護部師長を命ずる
5	九等級 高橋 直美	大学教育センター看護キャリアサポート部門主事を命ずる
6	八等級 磯部 毅	九等級に任ずる
7	八等級 大井田 亘	九等級に任ずる 葛飾医療センター管理課課長を命ずる
8	八等級 平島 徹	九等級に任ずる
9	八等級 櫻井 智生	九等級に任ずる
10	八等級 吉田 久子	九等級に任ずる
11	八等級 安部 一之	法人事務局同窓会事務長(兼務)を命ずる
12	八等級 中村 豊	法人事務局ナース就職支援室課長(兼務)を命ずる
13	八等級 阿部 信一	大学学術情報センター課長を命ずる
14	八等級 金子 文成	附属第三病院業務課課長を命ずる
15	八等級 横井 由紀枝	附属病院管理課課長を命ずる 附属病院港区立がん在宅緩和ケア支援センター課長(兼務)を命ずる
16	八等級 丸山 弘美	附属病院看護部師長を命ずる
17	八等級 近藤 きよ美	附属病院看護部師長を命ずる
18	八等級 小池 俊子	附属柏病院看護部師長を命ずる
19	八等級 日比野 幸子	附属柏病院医療安全推進室主事を命ずる
20	八等級 加藤 潤一郎	葛飾医療センター薬剤部課長を命ずる
21	八等級 藤山 博之	附属病院薬剤部課長補佐を命ずる
22	八等級 安藤 勝己	附属病院放射線部主事を命ずる
23	八等級 岩谷 理恵子	附属第三病院臨床工学部技士長補佐を命ずる
24	七等級 大亀 和之	八等級に任ずる
25	七等級 田中 久代	八等級に任ずる
26	七等級 和田 美恵	八等級に任ずる
27	七等級 笹木 織絵	八等級に任ずる
28	七等級 庄司 友和	八等級に任ずる 葛飾医療センター放射線部技師長補佐を命ずる
29	七等級 宮本 博康	八等級に任ずる 附属病院中央検査部技師長補佐を命ずる
30	七等級 村上 聡	附属柏病院業務課係長(課長業務代行)を命ずる
31	七等級 中尾 みさ子	慈恵柏看護専門学校副校長を命ずる

大学公報

公示

橋本 和弘氏に、名誉教授の称号を贈る  
 桑野 和善氏に、名誉教授の称号を贈る  
 初山 俊彦氏に、名誉教授の称号を贈る  
 伊藤 洋氏に、客員教授の称号を贈る  
 秋葉 直志氏に、客員教授の称号を贈る  
 高田 耕司氏に、客員教授を委嘱する  
 三浦 靖彦氏に、客員教授を委嘱する  
 坂東 興氏に、客員教授を委嘱する  
 敷島 敬悟氏に、客員教授を委嘱する  
 中田 浩二氏に、客員教授を委嘱する  
 荒屋 潤氏に、附属4病院呼吸器内科総括責任者を命ずる  
 荒屋 潤氏に、附属病院呼吸器内科診療部長を命ずる

- 2023年5月1日  
 石橋 敏寛准教授に、教授を命ずる  
 大谷 圭准教授に、教授を命ずる  
 奥野 憲司准教授に、教授を命ずる  
 増田 洋一郎講師に、准教授を命ずる  
 川上 剛講師に、准教授を命ずる  
 (特任期間 2023年5月1日～2026年3月31日)  
 黒部 仁氏に、附属病院小児外科診療部長を命ずる
- 2023年6月1日  
 山澤 徳志子准教授に、教授を命ずる  
 沼田 尊功准教授に、教授を命ずる  
 永森 収志准教授に、教授を命ずる  
 松島 理士講師に、准教授を命ずる

学事

- 大学院修了者  
 2022.12.28 都倉 桃子  
 2023.1.1 吉田 絵理子  
 2023.1.25 川本 浩徳 大井 悠平  
 2023.2.8 山田 理沙 山田 大輔 堀口 涼子  
 2023.2.22 伊藤 晶彦 大和 梓  
 2023.3.8 小山 能徹 陣内 駿一 矢崎 秀  
 柳垣 充 渡邊 直昭 川邊 万佑子  
 佐竹 澄子  
 2023.3.22 高橋 弘武 山本 和佳  
 2023.4.12 中條 恵一郎
- 学位論文通過者  
 2022.12.14 永吉 陽子 宮川 英恵 鎌田 哲平  
 2022.12.28 川畑 絢子  
 2023.1.25 鈴木 二郎  
 2023.2.8 劉 楷  
 2023.2.22 渡邊 健太郎 小田島 丘人  
 富田 陽一 原野 尚美  
 2023.3.8 渡邊 友之 岩下 正幸 鄭 雅誠  
 丸山 友希 中拂 一彦 田村 休応  
 高野 啓子  
 2023.3.22 北川 友通  
 2023.4.12 松井 仁志 馬場 健 原 圭吾  
 2023.4.26 白崎 圭輔 森下 洋平 栃木 悟  
 2023.5.10 武田 鉄平 寺山 友美 王 琢矢  
 2023.5.24 佐藤 健朗 伊藤 栄作

訃報

- ▶ 望月 幸夫名誉教授(放射線医学講座)は、1月3日逝去されました。
- ▶ 小野寺 昭一客員教授(感染制御科)は、5月6日逝去されました。
- ▶ 古谷 伸之教授(内科学講座(総合診療内科))は、5月16日逝去されました。



大学公報

東京慈恵会公報

● 教職員人事

2023年1月1日	新任	3等級・看護教員	田邊 ひとみ
2023年4月1日	昇級	6等級・看護教員	伊藤 美鈴
	昇級	4等級・看護教員	初原 由美子
	昇級	4等級・看護教員	山田 久枝
	新任	3等級・看護教員	田原 裕美子
	新任	3等級・看護教員	稲葉 英梨子

● 行 事

2023年3月10日(金)	慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。卒業生90名
2023年3月14日(火)	東京慈恵会理事会、評議員会、総会が開催された。
2023年4月4日(火)	慈恵看護専門学校入学式が挙行された。入学生(74期生) 92名

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター	附属病院(本院)	柏病院	葛飾医療センター
<p><b>慈恵医大生涯学習セミナー</b> 月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。</p> <p><b>月例セミナー</b> ●開催日時 第2土曜日(4月、6月、11月) 16:00~18:00 ●場所 附属病院(本院) 中央棟3階会議室</p> <p>第265回 月日 2023年11月11日(土) 時間 16:00~17:00 テーマ 心不全治療の変遷 演者 循環器内科 名越 智古</p> <p>第43回慈恵医大夏季セミナー 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム 日時 2023年9月21日(木) 19:00~20:30 テーマ 「日常診療で知っておきたい他科の知識」 お問合せ先:生涯学習センター TEL:03-3433-1111(大代表)内線2634</p>	<p><b>2023年度 みんなの健康教室</b> 今こそ始めよう!生活週間革命! (共催:NHK放送博物館・東京慈恵会医科大学) ●開催時間 14:00~15:15(開場13:30) ●場所 NHK放送博物館 愛宕山8Kシアター</p> <p>第3回 月日 2023年9月16日(土) テーマ LOH症候群と男性更年期障害 演者 泌尿器科 五十嵐 太郎 先生(助教/診療医員)</p> <p>第4回 月日 2023年11月18日(土) テーマ Quality of Vision と生きがい上げる白内障手術 演者 眼科 増田 洋一郎 先生(講師/診療医員)</p> <p>第5回 月日 2024年1月20日(土) テーマ かゆみの原因・治療 演者 皮膚科 石氏 陽三 先生(講師/診療医員)</p> <p>第6回 月日 2024年3月16日(土) テーマ 頻尿と尿失禁の原因と治療 演者 泌尿器科 五十嵐 太郎 先生(助教/診療医員)</p> <p>お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室 TEL:03-5400-1202(直通)</p>	<p><b>医療連携フォーラム</b> ●日時 2023年10月24日(火) 19:00~20:00 ●場所 ザ・クレストホテル柏 ●プログラム 院長挨拶・新任診療部長紹介</p> <p>演題1 「大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療」 循環器内科:診療部長 小武海 公明</p> <p>演題2 「画像診断装置の進化 -CT、MRIを中心に-」 放射線部:最上 拓児</p> <p>*現地開催を中心としたハイブリッド開催を予定しておりますが、感染状況により変更する場合がございます。</p>	<p><b>第56回 葛飾医療センター公開セミナー</b> ●日時 2023年9月9日(土) 14:00~15:30 ●場所 葛飾医療センター 5階講堂 ●テーマ 子宮頸がん ~最近のトピックス~</p> <p>●司会 総合診療部 診療部長 根本 昌実 ●演者 1)産婦人科 診療医員 森本 恵爾 「子宮頸がん予防に関する最近の話題」 2)看護部 緩和ケア認定看護師 金井 みどり 「がんと生活するということ」</p> <p><b>第57回 葛飾医療センター公開セミナー</b> ●日時 2024年2月10日(土) 14:00~15:30 ●場所 葛飾医療センター 講堂 ●テーマ 未定 ●演者 未定</p>

補助金・助成金

2022年度  
科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧

1.科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(2021年度、2022年度) (単位:千円)

研究種目	2021年度			2022年度		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	0	0	0	1	3,300	990
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	19	67,100	20,130	25	103,400	31,020
基盤研究(C)	125	125,300	37,590	136	150,770	45,231
挑戦的研究(萌芽)	5	10,100	3,030	7	13,200	3,960
基盤研究(S)	0	0	0	0	0	0
若手研究	86	86,050	25,815	87	90,000	27,000
研究活動スタート支援	11	11,800	3,540	8	8,200	2,460
特別研究員奨励費	2	2,000	300	3	2,800	300
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	1	14,300	4,290	1	14,400	4,320
国際共同研究強化(A)	1	0	0	0	0	0
国際共同研究強化(B)	1	5,800	1,740	1	4,300	1,290
学術変革領域研究(A)	1	20,800	6,240	1	10,600	3,180
学術変革領域研究(B)	0	0	0	1	11,000	3,300
合計	252	343,250	102,675	271	411,970	123,051

2.科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(新規採択分+継続分) (単位:千円)

研究種目	2022年度(継続分)			2022年度(新規採択分)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	0	0	0	1	3,300	990
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	14	49,600	14,880	11	53,800	16,140
基盤研究(C)	84	80,670	24,201	52	70,100	21,030
挑戦的研究(萌芽)	3	4,300	1,290	4	8,900	2,670
基盤研究(S)	0	0	0	0	0	0
若手研究	58	54,100	16,230	29	35,900	10,770
研究活動スタート支援	4	3,800	1,140	4	4,400	1,320
特別研究員奨励費	1	1,000	300	2	1,800	0
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	1	14,400	4,320	0	0	0
国際共同研究強化(A)	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化(B)	1	4,300	1,290	0	0	0
学術変革領域研究(A)	1	10,600	3,180	0	0	0
学術変革領域研究(B)	0	0	0	1	11,000	3,300
合計	167	222,770	66,831	104	189,200	56,220

注)①採択件数は、独立基盤形成支援を含み、年度途中の転入者及び転出者は除く。  
②延長(基金)、繰越(補助金)、学外分担者を除く。



財務報告

2022年度(令和4年度)決算

1.はじめに

2022年度は、新型コロナウイルス感染症は収束に向かいつつも影響が残り、病床確保などの制限が継続されました。そのため、外来患者数は大分回復してきましたが、入院患者数についてはいまだ回復途上です。感染対策補助金については2020年度、2021年度に続きコロナへの対応や環境整備が評価され交付を受けることができました。結果、基本金組入前当年度収支差額(利益)が予算を上回る決算となりました。

2.資金収支計算書

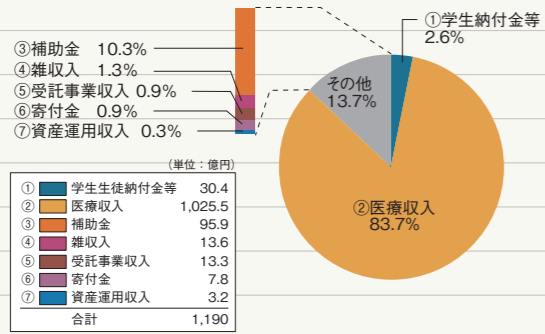
施設関係支出は16.1億円、設備関係支出は34.1億円でした。施設関係の主な支出は、建物が10.4億円、柏病院の手術室など建設仮勘定5.6億円の支払い、設備関係

の主な支出は手術支援ロボットなど医療器械24億円、システム関連5.1億円の支払いでした。この結果、次年度繰越金は524億円と前年度比15億円増加しました。これ以外に本学は有価証券を317億円保有している為、前期末の現金預金有価証券残高は841億円となり、2026年開院予定の第三病院建替えについて現状では十分な原資があると言えます。

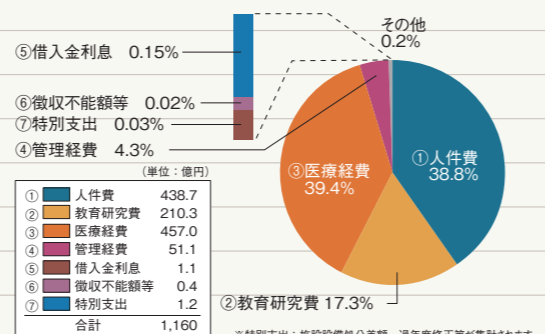
3.事業活動収支計算書

2021年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、医療収入は1025.5億円(予算比▲20.5億円・同比▲2.0%)、医療収支(医療粗利益)は597.1億円(予算比▲30.2億円・同比▲4.8%)と予算に届きませんでした。一方で、医療経費は、428.5億円(予算比+9.8億円・同比+

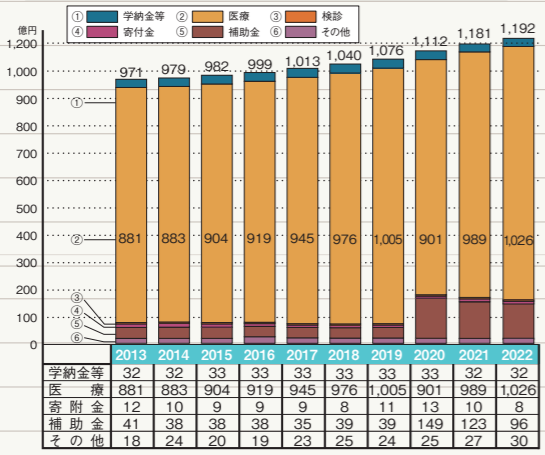
2022年度(令和4年度)事業活動収入の構成



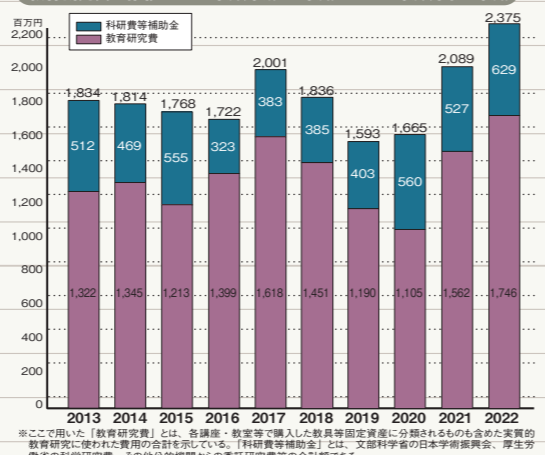
2022年度(令和4年度)事業活動支出の構成



事業活動収入の推移 2013年度(平成25年度)~2022年度(令和4年度)



教育研究費の推移 2013年度(平成25年度)~2022年度(令和4年度)



財務報告

2022年度(令和4年度)資金収支計算書

自 2022年4月1日  
至 2023年3月31日

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	43,929,400,387	学生生徒納付金収入	3,035,077,000
教育研究経費支出	58,671,298,691	手数料収入	136,955,520
教育研究費支出	15,184,950,219	寄付金収入	781,486,451
医療経費支出	43,486,348,472	補助金収入	9,593,649,231
管理経費支出	4,239,390,760	国庫補助金	3,630,891,434
		地方公共団体補助金	5,962,757,797
		その他の補助金	0
		事業収入	103,893,607,814
		医療収入	102,550,563,547
		受託事業収入	1,334,718,278
		収益事業収入	8,325,989
借入金等支払利息支出	109,813,900	受取利息・配当収入	318,879,491
借入金等返済支出	1,778,570,000	資産売却収入	0
施設関係支出	1,607,184,271	雑収入	1,354,896,890
設備関係支出	3,409,862,876	借入金収入	0
資産運用支出	7,300,150,000	前受金収入	623,059,300
その他支出	20,563,442,948	その他の収入	26,120,406,930
資金支出調整勘定	△ 20,096,012,670	資金収入調整勘定	△ 22,818,543,552
期末未払金	△ 20,096,012,670	期末未収入金	△ 21,732,927,252
		前期末前受金	△ 1,085,616,300
次年度繰越支払資金	52,424,354,821	前年度繰越支払資金	50,897,980,909
支出の部合計	173,937,455,984	収入の部合計	173,937,455,984

令和5年6月文部科学省へ提出

(単位:円)

2022年度(令和4年度)貸借対照表

2023年3月31日現在

資産の部		
科目	本年度末	前年度末
固定資産	152,082,388,834	157,108,162,125
有形固定資産	120,977,794,483	125,042,483,661
土地	7,444,357,987	7,444,357,987
建物	88,961,508,124	91,642,493,748
構築物	246,226,555	281,011,182
教育研究用機器備品	20,003,494,097	20,548,793,103
管理用機器備品	1,180,002,496	1,392,641,211
図書	2,831,847,320	2,830,527,194
車両	8,895,996	11,861,328
建設仮勘定	278,300,000	867,636,000
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000
退職給付引当特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000
その他の固定資産	29,504,594,351	30,465,678,464
施設利用権	397,650,978	397,650,978
有価証券	28,654,363,220	29,654,363,220
長期貸付金	452,580,153	413,664,263
ソフトウェア	0	3
流動資産	78,396,990,806	72,260,379,934
現金預金	52,424,354,821	50,897,980,909
未収入金	21,597,145,471	19,079,634,925
貯蔵品	1,214,927,651	1,143,855,792
有価証券	3,000,000,000	999,850,000
仮払金	160,562,863	139,058,308
資産の部合計	230,479,379,640	229,368,542,059

負債の部		
科目	本年度末	前年度末
固定負債	36,243,584,186	38,464,158,216
長期借入金	14,367,690,000	16,146,260,000
長期未払金	1,004,269,787	1,391,486,265
退職給付引当金	20,871,624,399	20,926,411,951
流動負債	23,070,049,699	22,904,802,639
短期借入金	1,778,570,000	1,778,570,000
未払金	20,112,375,944	19,533,399,095
前受金	623,059,300	1,085,616,300
預り金	554,939,455	506,312,244
保証金	1,105,000	905,000
負債の部 合計	59,313,633,885	61,368,960,855

純資産の部		
科目	本年度末	前年度末
基本金	225,063,007,104	222,534,155,357
第1号基本金	216,679,996,629	214,374,965,334
第4号基本金	8,383,010,475	8,159,190,023
翌年度繰越収支差額	△ 53,897,261,349	△ 54,534,574,153
繰越収支差額	△ 53,897,261,349	△ 54,534,574,153
純資産の部 合計	171,165,745,755	167,999,581,204
負債及び純資産の部合計	230,479,379,640	229,368,542,059

令和4年6月文部科学省へ提出

(単位:円)

2022年度(令和4年度)事業活動収支計算書

自 2022年4月1日  
至 2023年3月31日

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出	43,874,612,835	教育活動収入	3,035,077,000
人件費	66,730,619,636	学生生徒納付金	136,955,520
教育研究経費	21,033,378,237	手数料	706,486,451
医療経費	45,697,241,399	経常費等補助金	9,458,320,231
管理経費	5,112,575,098	事業収入	103,885,281,825
		医療収入	102,550,563,547
徴収不能額等	43,388,909	受託事業収入	1,334,718,278
徴収不能引当金繰入	43,388,909	雑収入	1,355,678,608
教育活動支出計	115,761,196,478	教育活動収入計	118,577,799,635
		教育活動収支差額	2,816,603,157
教育活動外支出	109,813,900	教育活動外収入	318,879,491
借入金等利息		その他の受取利息・配当	318,879,491
教育活動外支出計	109,813,900	教育活動外収入計	327,205,480
		教育活動外収支差額	217,391,580
特別支出	123,189,325	経常収支差額	3,033,994,737
資産処分差額	0	特別収入	255,359,139
その他の特別支出	0	資産売却差額	0
過年度修正額	0	その他の特別収入	255,359,139
		施設設備寄付金	75,000,000
		現物寄付	45,030,139
		施設設備補助金	135,329,000
		過年度修正額	0
特別支出計	123,189,325	特別収入計	255,359,139
		特別収支差額	132,169,814
基本金組入前当年度収支差額	3,166,164,551	基本金組入額合計	△ 2,528,851,747
		当年度収支差額	637,312,804
		前年度繰越収支差額	△ 54,534,574,153
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△ 53,897,261,349
事業活動支出計	115,994,199,703	事業活動収入計	119,160,364,254

(参考)

令和4年6月文部科学省へ提出

(単位:円)



財務報告

2023年度(令和5年度)予算

1. 予算編成方針

2023年度の予算編成方針は以下とした。

(1)例年は8月の夏季常任理事会で検討された長期資金計画を次年度の予算編成方針としてきたが、本年度は、足元の数字の推移と物価高騰、資源価格の高騰を反映させ、11月の常任理事会にて夏季常任理事会における試算を変更し報告した。

(2)予算編成方針:【当年度収支差額ゼロ、黒字確保】を目指す。

・昨年8月の夏季常任理事会で検討された長期資金計画(当年度収支差額7億円)から、医療以外の消耗品、光熱水費、委託費の価格高騰を反映、医療収支の伸び率が過大にならないよう、その上昇分を医療収支に全額上乘せするのではなく、医療収入+11億円、当年度収支差額▲7億円とし、当年度収支差額をゼロとした。また、そのための医療収入は1,081億円、医療経費は436億円、医療収支は645億円とした。  
・コロナの影響について、ポストコロナを前提に補助金はゼロとし計上せず、これまで同様予算の段階では見込まないこととした。

2. 2023年度予算概要

(1)事業活動収支計算書(損益計算書、尚、文中の前年度見込みについては2023年1月時点における見込みである。)

・収入合計は1,216億円(2022年度見込比+36億円/同比+3.1%)、支出合計は1,206億円(2022年度見込比+39億円/同比+3.3%)、結果として当年度収支差額(利益)は10億円(2022年度見込比▲3億円/同比▲23.1%)となり、予算編成方針の【当年度収支差額(利益)ゼロ、黒字確保】を10億円上回る予算を編成することができた。

・予算編成方針を大きく上回った理由は、4病院における医療収支が657億円(予算編成方針比+12億円/2022年度見込比+55億円)となったからである。因みに

に医療収入は1,105億円(同比+24億円/同比+69億円)、医療経費は448億円(同比+12億円/同比+14億円)、医療経費率40.5%(同比+0.2%/同比▲1.4%)となった。特に第三病院は医療収支114億円(2022年度見込比+14.6億円/同比+14.7%)と大きく伸ばす予算である。全体としてはポストコロナを展望し、特に第三病院においてはリニューアル計画へ向けた布石も含め意欲的な予算となっている。

・2022年度見込と比較すると、その他経費では+25億円であり、増加要因は人件費+8億円、消耗品+1億円、委託費+5億円、光熱水費+5億円、減価償却費+3億円。働き方改革や設備投資の影響に加え物価や資源価格高騰の影響が大きい。

(2)活動区分資金収支計算書(キャッシュフロー計算書、尚、文中の前年度見込みについては2023年1月時点における見込である。)

・施設整備活動資金支出  
2023年度の施設・設備関係支出予算は合計94億円(2022年度見込比+41億円)と、2022年度比で大きく増加する予算となっている。建物17億円(2022年度見込比+7億円)、教具24億円(2022年度見込比+14億円)、医療器械20億円(2022年度見込比▲6億円)、第三病院の新本館着工時の支払30億円支払いによる建設仮勘定(2022年度見込比+24億円)である。

・全体の資金繰り  
施設整備活動による投資は2022年度見込比では41億円増加、全体では12億円の支出超過となり、結果、2023年度末の現預金の金額となる翌年度繰越金は524億円となる見込である。

加えて、有価証券は2022年度と同レベルの300億円程度の残高を維持できる見込であることから、2023年度末の現預金・有価証券の合計残高は824億円程度となる見込である。第三病院建替えに備え必要な現預金+有価証券の水準を現時点では維持している。

財務報告

2023年度(令和5年度)事業活動収支予算書 (単位:千円)

自 2023年4月1日  
至 2024年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	2022年度(R4)	2023年度(R5)	対前年比較	科目	2022年度(R4)	2023年度(R5)	対前年比較
教育活動支出				教育活動収入			
人件費	43,981,758	44,823,069	841,311	学生生徒納付金	3,101,670	3,059,570	▲42,100
教育研究経費	65,029,445	69,807,574	4,778,129	手数料	127,776	137,126	9,350
教育研究経費	20,350,036	22,029,165	1,679,129	寄付金	882,522	817,105	▲65,417
医療経費	44,679,409	47,778,409	3,099,000	経常費等補助金	3,852,155	4,018,738	166,583
管理経費	4,987,945	5,475,554	487,609	付随事業収入	105,641,909	111,750,280	6,108,371
				医療収入	104,596,794	110,497,651	5,900,857
徴収不能額等	40,000	34,000	▲6,000	受託事業収入	1,045,115	1,252,629	207,514
教育活動支出計	114,039,148	120,140,197	6,101,049	雑収入	1,109,404	1,308,364	198,960
				教育活動収入計	114,715,436	121,091,183	6,375,747
教育活動外支出				教育活動収支差額	676,288	950,986	274,698
借入金等利息	103,549	102,166	▲1,383				
教育活動外支出計	103,549	102,166	▲1,383	教育活動外収入			
				その他の受取利息・配当金	309,953	310,762	809
				教育活動外収入計	309,953	310,762	809
				教育活動外収支差額	206,404	208,596	2,192
				経常収支差額	882,692	1,159,582	276,890
特別支出							
資産処分差額	85,105	365,069	279,964	特別収入			
その他の特別支出	0	0	0	資産売却差額	0	0	0
				その他の特別収入	145,893	176,306	30,413
				施設設備寄付金	125,000	145,000	20,000
				施設設備補助金	20,893	31,306	10,413
特別支出計	85,105	365,069	279,964	特別収入計	145,893	176,306	30,413
				特別収支差額	60,788	▲188,763	▲249,551
基本金組入前当年度収支差額	943,480	970,819	27,339	基本金組入額合計	▲4,530,014	▲1,697,564	2,832,450
				当年度収支差額	▲3,586,534	▲726,745	2,859,789
				前年度繰越収支差額	▲58,121,108	▲56,844,084	1,277,024
				基本金取崩額	0	0	0
				翌年度繰越収支差額	▲61,707,642	▲57,570,829	4,136,813

(参考)

事業活動支出計	114,227,802	120,607,432	6,379,630	事業活動収入計	115,171,282	121,578,251	6,406,969
---------	-------------	-------------	-----------	---------	-------------	-------------	-----------

2023年度(令和5年度)資金収支予算書 (単位:千円)

自 2023年4月1日  
至 2024年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	2022年度(R4)	2023年度(R5)	対前年比較	科目	2022年度(R4)	2023年度(R5)	対前年比較
人件費支出	43,774,395	44,692,499	918,104	学生生徒納付金収入	3,101,670	3,059,570	▲42,100
教育研究経費支出	56,952,156	61,464,923	4,512,767	手数料収入	127,776	137,126	9,350
教育研究費支出	14,538,948	16,077,819	1,538,871	寄付金収入	1,007,522	962,105	▲45,417
医療経費支出	42,413,208	45,387,104	2,973,896	補助金収入	3,873,048	4,050,044	176,996
管理経費支出	4,137,999	4,604,647	466,648	国庫補助金	3,683,678	3,535,789	▲147,889
				地方公共団体補助金	185,570	511,255	325,685
				その他の補助金	3,800	3,000	▲800
借入金等支払利息支出	103,549	102,166	▲1,383	事業収入	105,641,909	111,750,280	6,108,371
				医療収入	104,596,794	110,497,651	5,900,857
借入金等返済支出	1,778,570	1,778,570	0	受託事業収入	1,045,115	1,252,629	207,514
施設関係支出	7,581,433	4,746,991	▲2,834,442	受取利息・配当金収入	309,953	310,762	809
設備関係支出	4,933,572	4,662,120	▲271,452	雑収入	1,109,404	1,308,364	198,960
資産運用支出	6,000,000	3,000,000	▲3,000,000	借入金等収入	0	0	0
その他支出	20,220,279	20,755,204	534,925	前受金収入	1,085,616	623,059	▲462,557
【予備費】	700,000	700,000	0	その他の収入	26,029,152	25,444,743	▲584,409
資金支出調整勘定				資金収入調整勘定	▲18,900,145	▲20,488,607	▲1,588,462
期末未払金	▲18,781,354	▲18,194,089	587,265	期末未収入金	▲17,814,529	▲19,865,548	▲2,051,019
次年度繰越支払資金	49,050,775	52,386,617	3,335,842	前期末前受金	▲1,085,616	▲623,059	462,557
支出の部合計	176,451,374	180,699,648	4,248,274	前年度繰越支払資金	53,065,469	53,542,202	476,733
				収入の部合計	176,451,374	180,699,648	4,248,274



プレスリリース (2022.12~2023.5)

ホームページでもご覧いただけます  
http://www.jikei.ac.jp/jikei/press.html



配信日	タイトル	発信者
2022年12/9	大腸内視鏡の病変検出AIソフトウェア「EIRL Colon Polyp」が薬事承認を取得 ～人工知能の活用による、大腸ポリープの見落とし率改善に期待～	内視鏡医学講座 炭山和毅講座担当教授、榎俊介助教、伊藤守大学院生
2023年1/5	マウスにおいて恐怖による摂食抑制を担う神経基盤(IPB-PSTN経路)を世界で初めて解明 ～ストレスと摂食制御を関連づける中枢メカニズムの解明に期待～	総合医科学研究センター臨床医学研究所 永嶋宇ポストドクトラルフェロー、渡部文子教授
1/12	未知の脳領域「前障」の形成過程を解明	解剖学講座 久保健一郎教授
1/23	バイオフィルムを数秒で透明化する新技術「iCBiofilm」を開発 ～内部の微細構造や生きたままの微生物を深部まで観察することが可能に～	細菌学講座 杉本真也准教授、金城雄樹教授
1/24	かかりつけ医機能が高いほどコロナ禍での入院リスクが低下 ～高いかかりつけ医機能を発揮する医師を持つと入院リスクが約6割減少～	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 青木拓也講師、松島雅人教授
2/2	妊婦のワクチン接種はオミクロン変異株によるCOVID-19の重症化や妊娠合併症のリスク低減に有効	産婦人科学講座 高橋健助教
3/1	肺線維化に合併するがんの悪性化メカニズムを解明 ～老化した線維芽細胞が分泌するエクソソームが肺がん増殖を促す～	エクソソーム創薬研究講座 藤田雄講師、内科学講座(呼吸器内科) 藤本祥太助教、荒屋潤教授、桑野和善講座担当教授、外科学講座(呼吸器外科) 大塚崇講座担当教授
3/8	前立腺癌における新たなs骨転移進展機構を解明 ～エクソソームを標的とした新たな前立腺癌治療法への期待～	泌尿器科学講座 木村高弘教授、占部文彦助教
4/20	パーキンソン病の新しい発症メカニズムを発見 ～水素イオンとカリウムイオンの輸送異常が原因～	SI医学応用研究センター・臨床検査医学講座 永森收志准教授、ウィリヤサムン パッタマ講師
4/21	イルカの腎老化メカニズムを解明 ～高齢化社会を迎える飼育イルカの健康維持に向けて～	内科学講座(腎臓・高血圧内科) 横尾隆教授、小泉誠助教
5/9	ビタミンDサプリメントを摂取すると癌の死亡率は12%減少する 国際共同研究による10万人のデータ解析で明らかに	分子疫学研究部 浦島充佳教授
5/19	超高磁場MRIで見る霊長類「全脳」神経回路の多様 —分野横断型の霊長類脳標本画像リポジトリ:ヒト脳と精神・神経疾患の理解を加速する国際研究基盤—	再生医学研究部 岡野ジェイムス洋尚教授、太田裕貴講師、曾我部和美大学院生
5/29	新型コロナウイルス・スパイクタンパク質の病原性を解明 —新型コロナ後遺症および次世代ワクチン開発に重要知見—	ウイルス学講座 近藤一博講座担当教授
5/30	港区と慈恵大学は包括的連携協力に関する基本協定を締結します! ～多分野にわたる連携・協力による地域社会の更なる発展をめざして～	学校法人慈恵大学

メディア掲載一覧 (2022.12~2023.5)

ホームページでもご覧いただけます  
http://www.jikei.ac.jp/jikei/media.html



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
12月1日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大 葛飾医療センター 小児科 小児科 助教 堀向 健太	
12月1日	毎日新聞	発言「臓器を作りたい」続く挑戦	腎臓再生医学講座 特任教授 小林 英司
12月2日	中国新聞	糖尿病の個別指導 個別化へ	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
12月5日	中国新聞	東南アジア 医療奉仕の志 東京慈恵会医大 大村医師 岩国で講演「対等に関わる」	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
12月5日	琉球新報	<インフォメーション>東南アジアで尽力 医師に密着 / 山口・岩国で映画上映会	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
12月5日	デイリー新潮	ワクチン接種で死亡者数急増は本当か? 専門家が「日本は超過死亡率が最も少ない国のひとつ」と説く理由	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
12月6日	東京新聞 WEB版	患者癒やすセラピー犬 港区の慈恵医大病院 元保護犬引き取り育成	実験動物研究施設 施設長 嘉藤 洋陸 秘書 吉村 彩香 らんぶの会
12月6日	東京新聞	TOKYO 発 港区の慈恵医大病院 元保護犬引き取り育成 患者癒やすセラピー	実験動物研究施設 施設長 嘉藤 洋陸 秘書 吉村 彩香 らんぶの会
12月8日	読売新聞	港区と医療機関 感染症対策強化で連携 協議会初会合 研修や訓練共同で	感染対策部
12月8日	日経メディカル	インタビュー 移行医療支援ガイドを参考に定期的な検査を 高齢化進むダウン症患者、ガイドを診療の一助に 東京慈恵会医科大学附属病院遺伝診療部講師の竹内千仙氏に聞く	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
12月9日	Q Life Pro	線内障の遺伝子治療用ベクターを開発、進行抑制・視神経再生に期待—都医学研ほか	眼科学講座 助教 西島 義道
12月9日	現代ビジネス	日本一の外科医が「病院の手術数ランキングは信用するな」と語る理由	外科学講座 教授 大木 隆生
12月9日	産経新聞	コロナ死亡率 日本なぜ低い 大学研究チーム データ解析 高齢大国「平時から危機管理」教訓	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
12月9日	PRTIMES	大腸ポリープ候補を検出し、大腸内視鏡検査を支援する「EIRL Colon Polyp」を新発売	内視鏡医学講座 講座担当教授 炭山 和毅
12月9日	時事メディカル	大腸内視鏡の病変検出 AI ソフトウェア「EIRL Colon Polyp」が薬事承認を取得	内視鏡医学講座 講座担当教授 炭山 和毅
12月12日	QLifePro	～人工知能の活用による、大腸ポリープの見落とし率改善に期待～東京慈恵会医科大学 エルピクセル株式会社 大腸ポリープ検出支援ソフト「EIRL Colon Polyp」が承認取得—慈恵大ほか	内視鏡医学講座 教授 炭山 和毅
12月13日	日本経済新聞	向き合う 東京慈恵会医科大学准教授 高尾洋之さん(1) 体が突然動かず、4カ月意識失う	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
12月15日	日経クロステック	ベンチャー探訪 ReeNT、中耳疾患の再生医療で2024年の承認申請を予定	耳鼻咽喉科学講座
12月17日	日本経済新聞	カラダづくり 増える乾癬患者 進行で心筋梗塞リスクも 10年で倍増 他の病気との見分け難く	柏病院 皮膚科 診療部長 遠藤 幸紀
12月17日	読売新聞	医療ルネサンス 腎がん(3) 手術難しい人に凍結療法	柏病院 泌尿器科 診療部長 三木 淳
12月19日	薬事日報	MRは情報収集に注力を 問われるリスク管理意識	薬剤部 部長 川久 保孝
12月19日	Health Day	アルコール摂取と白内障リスクとの関連が明らかに—日本人約3万人の症例対照研究	眼科学講座 助教 寺内 稜
12月20日	日本経済新聞	向き合う 東京慈恵会医科大学准教授 高尾洋之さん(2) オンラインで医師の連携必要	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
12月22日	産経新聞(大阪版)	生き逝く 在宅死という考え方 「自宅が病院に」iPadがもたらすオンライン在宅医療の可能性	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
12月23日	DIAMOND Online	飲酒と「白内障」リスクの関連、日本人3万人の症例を研究して明らかに	眼科学講座 助教 寺内 稜
12月27日	日本経済新聞	向き合う 東京慈恵会医科大学准教授 高尾洋之さん	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
12月27日	朝日新聞	「脱マスク」の影 懸念なお インド 親無くした子 心に病	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
12月27日	nukumore	脳活性!和のパズル塗り絵「歌舞伎」	リハビリテーション科 教授 渡邊 修
12月27日	Nikkei Style	皮膚がはがれ落ちる乾癬、ミドルで増加 関節の変形も	柏病院 皮膚科 診療部長 遠藤 幸紀
12月29日	Woman Excite	寝正月に革新 腰痛解消する「寝返りコロナ」体操を慈恵医科大副院長がレクチャー!	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保 雅博
12月29日	静岡新聞 他	成人ダウン症初の診療手引	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
12月30日	琉球新報 他	「ダウン症医療参考に」学会発表 初の成人期診療手引	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
12月30日	現代ビジネス	医師たちが明かした、がんになったら手術してほしい「本当の名医」	泌尿器科 診療副部長 三木 健太
1月1日	日本医事新報社	かかりつけ医機能の明確化にあたって【炉辺問話】	臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
1月3日	日本経済新聞	成人期のダウン症で手引 診療向け 学会が初発表	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
1月5日	東洋経済オンライン	iPS細胞を駆使、実用化は近い?再生医療の最前線 腎臓、角膜、心筋「再生医療研究」第一人者取材	腎臓・高血圧内科 教授 横尾 隆
1月5日	innavinet	東京慈恵会医科大学と鳥津製作所がAI技術で骨粗鬆症診断を支援する「Smart QM」を発表	整形外科学講座 教授 斎藤 充
1月5日	時事メディカル	マウスにおいて恐怖による摂食抑制を担う神経基盤(IPB-PSTN経路)を世界で初めて解明～ストレスと摂食制御を関連づける中枢メカニズムの解明に期待—東京慈恵会医科大学、大阪大学～	臨床医学研究所 ポストドクトラルフェロー 永嶋 宇 教授 渡部 文子
1月6日	北海道新聞	ダウン症に診療手引 学会、成人期の問診提示	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
1月10日	日本経済新聞	東京慈恵会医科大学准教授 高尾洋之さん(4) 医療DX、患者も医療者も負担減	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
1月10日	QLifePro	恐怖による摂食抑制に「IPB-PSTN経路」が関与、マウスで確認—慈恵大ほか	臨床医学研究所 ポストドクトラルフェロー 永嶋 宇 教授 渡部 文子
1月10日	日本医事新報社	線毛機能不全症候群を疑うポイントと対応は?	耳鼻咽喉科学講座 講師 森 恵莉
1月13日	時事メディカル オンライン	未知の脳領域「前障」の形成過程を解明	解剖学講座 教授 久保 健一郎
1月12日	時事メディカル	「慈恵医大リハシ いくつになっても歩ける体をつくる秘訣教えます!」新春市民公開講座開催のご案内	リハビリテーション医学講座担当教授 安保 雅博 准教授 中山 恭秀 栄養部 課長 濱 裕宣
1月12日	時事メディカル	未知の脳領域「前障」の形成過程を解明～現役医学部生による研究成果～	解剖学講座 教授 久保 健一郎
1月18日	日本医事新報社	重症低血糖に対する点鼻グルカゴン製剤の有効性について	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
1月19日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大 葛飾医療センター 小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
1月20日	日本工業新聞	未解明の脳領域「前障」 慶大など形成過程解明	解剖学講座 教授 久保 健一郎
1月21日	神戸新聞	コロナ対策 平時にかじ 4月にも5類以降 首相、昨夏から時期探る	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
1月23日	科学技術振興機構	バイオフィルムを数秒で透明化する新技術「iCBiofilm」を開発～内部の微細構造や生きたままの微生物を深部まで観察することが可能に～	細菌学講座 准教授 杉本 真也
1月23日	news wit	意識つかさどる未知の脳領域「前障」、形成過程が解明された	解剖学講座 教授 久保健一郎
1月24日	BtoB プラットフォーム業界 ch	バイオフィルムを数秒で透明化する新技術「iCBiofilm」を開発～内部の微細構造や生きたままの微生物を深部まで観察することが可能に～	細菌学講座 准教授 杉本 真也
1月24日	OPTRONICS online	慈恵医大、バイオフィルムを数秒で透明化	細菌学講座 准教授 杉本 真也
1月24日	時事メディカル	バイオフィルムを数秒で透明化する新技術「iCBiofilm」を開発～内部の微細構造や生きたままの微生物を深部まで観察することが可能に～ 東京慈恵会医科大学、科学技術振興機構（JST）	細菌学講座 准教授 杉本 真也
1月24日	時事メディカル	かかりつけ医機能が高いほどコロナ禍での入院リスクが低下～高いかかりつけ医機能を発揮する医師を持つと入院リスクが約6割減少～ 東京慈恵会医科大学	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也 教授 松島 雅人
1月24日	日本経済新聞電子版	慈恵医大、バイオフィルムを数秒で透明化する技術「iCBiofilm」を開発	細菌学講座 准教授 杉本 真也
1月25日	現代ビジネス	「認知症かもしれない」そのとき、あなたの心はどう動く？ 認知症といわれたら(1) 前編	精神神経科 教授 繁田 雅弘
1月25日	現代ビジネス	「認知症」に早めの受診が効くワケ。認知症のタイプも徹底解説！ 認知症といわれたら(1) 後編	精神神経科 教授 繁田 雅弘
1月26日	QLifePro	かかりつけ医機能が高いほど、コロナ禍での入院リスク低下の傾向～慈恵大	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也 教授 松島 雅人
1月27日	現代ビジネス	“認知症”と判断されて変わるの、症状よりも家族の見方！ 認知症を「管理が必要な人」と見てはいけない 認知症といわれたら(2) 前編	精神神経科 教授 繁田 雅弘
1月27日	現代ビジネス	認知症の困った言動の裏にある真意とは？ いま家族が知っておきたい5つのコト 認知症といわれたら(2) 後編	精神神経科 教授 繁田 雅弘
1月29日	朝日新聞 Globe+	大村和弘医師描いた映画「Dr.Bala（ドクターバラ）」が話題 東南アジアで活動12年	耳鼻咽喉科学講座 講師 大村 和弘
1月29日	日本経済新聞電子版	平時の地域医療、超過死亡を低減 長引く対策に代償も コロナと病(第3部)? 浦島充佳・東京慈恵会医科大学教授	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
1月30日	日経産業新聞	バイオフィルムを数秒で透明化する新技術「iCBiofilm」を開発～内部の微細構造や生きたままの微生物を深部まで観察することが可能に～(JST)	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
1月31日	care net	かかりつけ医の機能が高いとコロナ入院リスクが低下 / 慈恵医大	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也 教授 松島 雅人
1月31日	日本経済新聞	コロナと病 = 第3部(4) 東京慈恵会医科大学教授 浦島充佳氏 超過死亡の抑制 長引く対策、代償も	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
1月31日	ラジオ NIKKEI	「医学講座」 「胃切除後のQOLの改善」	臨床検査医学講座 教授 中田 浩二
2月1日	日経産業新聞	細菌の塊 瞬時に透明化 慈恵医大 感染症の研究後押し	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
2月1日	PRTIMES	医師が患者になって見えた事 高尾 洋之 東京慈恵会医科大学 准教授 / 上	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
2月2日	病院新聞.com	コロナ禍の入院リスクはかかりつけ医機能が高いほど低下。東京慈恵医大が研究結果発表インタビュー◎認知症診療のコツを先達に学ぶ 認知症の告知、「知らない権利」も尊重を 日本認知症ケア学会理事長の繁田雅弘氏に聞く	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也 精神神経科 教授 繁田 雅弘
2月2日	日本経済新聞	慈恵医大など、妊婦のワクチン接種がオミクロン変異株によるCOVID-19の重症化や周産期転帰に与える影響について発表	産婦人科 助教 高橋 健
2月3日	日本経済新聞電子版	細菌の塊 瞬時に透明化 慈恵医大 感染症の研究後押し	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
2月3日	iza	「かかりつけ医」を持つ人は新型コロナ禍での入院リスクが低下 慈恵医大「政策強化の基礎資料に」	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
2月5日	AERAdot.	【慢性腎臓病】新たな国民病ともいわれ、成人の8人に1人が該当 人工透析は日々の生活に影響が大きい	葛飾医療センター 腎臓・高血圧内科 診療部長 丹野 有道
2月6日	糖尿病リソースガイド	【新型コロナ】かかりつけ医機能が高い医師ほどコロナ禍での入院リスクは低下	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
2月6日	現代ビジネス	老化を「逆に早めてしまう」クスリがあった《視力や認知能力の低下》《記憶障害》《脳出血》	教授 横山 啓太郎
2月11日	毎日新聞 web	“鼻づまり”だけじゃない 国内に200万人? 「副鼻腔炎」とは	耳鼻咽喉科学講座 教授 鴻 信義
2月16日	集英社オンライン	「命の次にiPadが大事」…10万人に1人の難病「ギラン・バレー症候群」と闘い続ける医師が健常者にも届けたいアクセシビリティ機能のこと	先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之
2月17日	下野新聞	成人ダウン症に初めて診療手引き / 学会公表、家族向けも	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
2月19日	読売新聞オンライン	殺虫剤効かないネッタシマカ、東南アジアで確認…日本に侵入し Dengue 熱など媒介の恐れ	熱帯医学講座 教授 嘉糠 洋陸
2月19日	TBS テレビ	健康カプセル! ゲンキの時間 ～ひと工夫で大幅減塩も!～ 冬こそ実践すべき高血圧対策	腎臓・高血圧内科講座担当教授 横尾 隆 栄養部 管理栄養士 干川 三稀 外科学講座 助教 滝沢 玲央
2月20日	日刊工業新聞	宇宙用 点滴装置 IHI エアロが試作品	
2月20日	毎日新聞	質問なるほど! 副鼻腔炎ってどんな病気?	耳鼻咽喉科学講座 教授 鴻 信義
2月20日	読売新聞	殺虫剤効かない蚊 国立感染研などチーム Dengue 熱媒介 東南アに生息 突然変異で耐性か	熱帯医学講座 教授 嘉糠 洋陸
2月21日	東京新聞、静岡新聞、他	涙目 病気の可能性も	眼科学講座 講師 田 聖花
2月24日	m3.com	かかりつけ医機能が高いほど入院リスク減、慈恵医大らの研究「制度作っただけでは不十分、かかりつけ医の認証・認定制度を」	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
3月1日	毎日新聞 医療プレミア	ほむほむ先生のアレルギー入門 手のひらのシワを見れば「乾燥肌になりやすい体質」か 予想できる?	小児科 助教 堀向 健太
3月1日	時事メディカル	肺線維化に合併するがんの悪性化メカニズムを解明 ～老化した線維芽細胞が分泌するエクソソームが肺がん増殖を促す～	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄 内科学講座(呼吸器内科) 助教 藤本 祥太 教授 荒屋 潤 講座担当教授 桑野 和善 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚 崇

年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
3月3日	日刊工業新聞	肺がん悪性化、仕組み解明 慈恵医大・東京医大 肺線維化 細胞促進促す	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄
3月3日	日刊工業新聞 WEB	肺線維化に合併する肺がん悪性化、慈恵医大・東京医大がメカニズム解明 エクソソームが増殖促進	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄
3月3日	医療ニュース	特異性肺線維化に合併するがん、線維芽細胞由来エクソソームが悪性化促進～慈恵大ほか	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄 内科学講座(呼吸器内科) 助教 藤本 祥太 教授 荒屋 潤 講座担当教授 桑野 和善 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚 崇
3月6日	朝日新聞	新一年生 食物アレルギー 注意点は 給食で初めて発症も 家庭と学校 気軽に連絡取る関係に	小児科 診療部長 勝沼 俊雄
3月7日	朝日新聞	リケジョがなくなる日 育児も研究も 可能性、狭めない ポスドクで出産 週末婚に限界	薬理学講座 講師 志牟田 美佐
3月8日	日経バイオテック	肺線維化に合併する肺がん悪性化に細胞外小胞が関与	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄
3月8日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門	小児科 助教 堀向 健太
3月9日	時事メディカル オンライン	前立腺癌における新たな骨転移進展機構を解明 ～エクソソームを標的とした新たな前立腺癌治療法への期待～	泌尿器科学講座 教授 木村 高弘 助教 占部 文彦
3月9日	毎日新聞 web	前立腺癌における新たな骨転移進展機構を解明 ～エクソソームを標的とした新たな前立腺癌治療法への期待～	泌尿器科学講座 教授 木村 高弘 助教 占部 文彦
3月10日	朝日新聞	コロナ「パンデミック」3年 続く変異 終息なお見えず	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
3月10日	朝日新聞	罪 寄生虫と人類(下)「生き残り戦略」病気治療に光 宿主の免疫から攻撃逃れる仕組み 利用	熱帯医学講座 教授 嘉糠 洋陸
3月11日	読売新聞	からだの質問箱 矢野真吾 東京慈恵会医科大学腫瘍・血液内科教授	腫瘍・血液内科 教授 矢野 真吾
3月16日	AERAdot.	脳卒中の5つのサイン 症状が出たら迷わず救急車を呼んで 脳梗塞には兆しがみられることも	脳神経内科 教授 井口 保之
3月17日	河北新報	コロナ下 血糖値も変動 糖尿病とうまく付き合おう	糖尿病・代謝・内分泌内科 診療部長 西村 理明
3月18日	朝日新聞 web	パンデミック3年「自国技術で守れず」の警鐘 次に来るウイルスは	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
3月20日	BtoB プラットフォーム業界 ch	新たに2 医療機関を救命救急センターに指定	附属病院(本院)救命救急センター
3月20日	Nikkei Style	心臓の震えて血のよどみ 心房細動、脳卒中の原因にも	臨床薬理学講座 教授 志賀 剛
3月20日	愛媛新聞	(出過ぎる・・・流れない・・・) その涙目病気かも? 眼科受診し適切ケアを 加齢で増加 傾向 手術も選択肢に	眼科学講座 講師 田 聖花
3月21日	日本歯科新聞	バイオフィルムを透明化する技術 - 慈恵医大が開発	細菌学講座 准教授 杉本 真也
3月22日	日経バイオテック	東京医科大など、前立腺がんの骨転移にエクソソームが関与と解明	泌尿器科学講座 教授 木村 高弘 助教 占部 文彦
3月23日	AERAdot.	脳梗塞の疑いで救急車を呼ぶとき家族が準備すべき「3つ」のものは? おくすり手帳、診察券、あと1つは	脳神経内科 教授 井口 保之
3月23日	愛媛新聞、中国新聞、他	バイオフィルムを“透視” 慈恵医大が新技術開発	細菌学講座 准教授 杉本 真也
3月28日	medicalnote	治療法は増えただけ…希少疾患「先天性代謝異常症」を取り巻く現状と課題	慈恵大学 理事 井田 博幸
3月28日	メディアアクセス	バイオフィルムを“透視” 慈恵医大が新技術開発	細菌学講座 准教授 杉本 真也
3月30日	神戸新聞	認知症カフェ 対等な立場で集う場 本人・家族、医療従事者など専門職、一般の人も	精神医学講座 教授 繁田 雅弘
3月31日	河北新報	成人期ダウン症 / 健康維持の参考に / 学会が初の診療手引 / 18歳で合併症見つかる例も	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
3月31日	tokyo MX+	救急医療体制の充実向け 都の救命救急センターに2 医療機関を新たに指定	
4月1日	ニッポン放送	「坂本梨紗のヘルシー・メルシー!」子宮頸がんの予防・疾患啓発～病態、ワクチンでの予防や検診の重要性について	産婦人科学講座 講座担当教授 岡本 愛光
4月3日	時事通信 JJI.COM	新一年生 食物アレルギー 注意点は 給食で初めて発症も 家庭と学校 気軽に連絡取る関係に	第三病院 小児科 診療部長 勝沼 俊雄
4月3日	NHK ラジオ第1	マイあさ! 健康ライフ「がんサバイバーを考える」(1～5) ※5日間連続	客員教授 高橋 都
4月3日	河北新報、東京	新入生 / 給食で初の食材 / アレルギー発症に注意 / 専門家、異変「すぐに119番を」	第三病院 小児科 診療部長 勝沼 俊雄
4月5日	新聞、神戸新聞	救急医療体制の充実向け 都の救命救急センターに2 医療機関を新たに指定	
4月5日	PORTAL FIELD ニュース	AGC バイオロジクスが特異性肺線維症 (IPF) プロジェクトに向け東京慈恵会医科大学とエクソソームについて合意	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄
4月5日	東京新聞	難治性の感染症など解明期待 東京慈恵会医大が新技術 微生物の膜 生きたまま「透視」	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
4月7日	読売新聞(大阪)	なるほど科学 & 医療 = エクソソームの医療応用 細胞間で「メッセージ」情報読み取り がん検査開発	呼吸器内科 講師 藤田 雄
4月7日	読売新聞	【特集】 医大との連携で救急の最前線と薬理学を体験する…芝中	救急医学講座 講座担当教授 武田 聡 万代 康弘 薬理学講座
4月8日	十勝毎日新聞電子版	【健康】 療養早期の在宅死多く 在宅療養患者の死亡要因	臨床疫学研究部 教授 松島 雅人
4月9日	十勝毎日新聞電子版	【健康】 糖尿病との付き合い方 コロナ下の血糖管理	糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 西村 理明
4月10日	日本テレビ ヒルナンデス!	目からウロコの新常識! (栄養編)	栄養部 部長 濱 清宣
4月10日	NHK あさいち	“香りのチカラ”で毎日の生活をアップデート!	耳鼻咽喉科学講座 講師 森 恵莉
4月10日	長崎新聞	バイオフィルムを生きたまま“透視” 慈恵医大が新技術開発	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
4月12日	日経メディカル	短期連載◎保存版「アミオダロン大全」(その1) 伝承されなくなったアミオダロンの使い方を今まとめておく	臨床薬理学講座 教授 志賀 剛
4月13日	山梨日日新聞	涙目 病気の疑いも 症状強ければ治療を	眼科学講座 講師 田 聖花
4月15日	NHK news web	ウクライナから避難の子ども15%に“心に大きな負担”	小児科 教授 大石 公彦
4月16日	NHK Eテレ	「今知りたい! 新型コロナ後遺症」	耳鼻咽喉科学講座 講師 森 恵莉
		チョイス@病気に なったとき	



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
4月19日	産経ニュース 他	働く世代の腎臓病対策強化 早期発見治療へモデル事業、厚労省	学校法人慈恵大学
4月19日	産経新聞 他	厚労省がモデル事業 腎臓病 早期発見・治療へ	学校法人慈恵大学
4月19日	十勝毎日新聞電 子版	【健康】居場所としての「認知症カフェ」対等な関係がポイント	精神医学講座 教授 繁田 雅弘
4月19日	現代ビジネス	たった10分で「猫背」を劇的に改善できる「驚きの体操」があった…！毎日コツコツ姿勢を変える	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保 雅博
4月20日	産経新聞、他	厚労省がモデル事業 腎臓病 早期発見・治療へ	学校法人慈恵大学
4月21日	高知新聞	外科医目指す若者増やしたい 日本外科学会・会頭 大木慈恵医大教授（いの町出身）に聞く	外科学講座 教授 大木 隆生
4月21日	時事メディカル	パーキンソン病の新しい発症メカニズムを発見～水素イオンとカリウムイオンの輸送異常が原因～ 富山大学、東京慈恵会医科大学、京都大学	SI医学応用研究センター、臨床検査医学講座 准教授 永森 收志
4月21日	日本経済新聞web	パーキンソン病の新しい発症メカニズムを発見～水素イオンとカリウムイオンの輸送異常が原因～ 富山大学、東京慈恵会医科大学、京都大学	SI医学応用研究センター、臨床検査医学講座 准教授 永森 收志
4月21日	日本経済新聞web	慈恵医大・香川大・神戸大など、イルカの腎老化メカニズムを解明	腎臓高血圧内科 教授 横尾 隆 実験動物研究施設 助教 小泉 誠
4月21日	時事メディカル	イルカの腎老化メカニズムを解明～高齢化社会を迎える飼育イルカの健康維持に向けて～	腎臓高血圧内科 教授 横尾 隆 実験動物研究施設 助教 小泉 誠
4月24日	medicalnote	「100回生まれ変わっても外科医に」―大木隆生先生の思いと外科医療を取り巻く現状	外科学講座 教授 大木 隆生
4月24日	北日本新聞	パーキンソン病発症一部解明 富山大 根本治療へ一歩	SI医学応用研究センター、臨床検査医学講座 准教授 永森 收志
4月25日	日本医事新報	【識者の眼】「パンデミックの海で④―クルーズ船で遭遇した光景」櫻井 滋	感染症科 講師 中澤 靖 看護部 主事 美島 路恵
4月26日	朝日こども新聞 web	疑問解決☆なるほどね！鼻血は目から出てくる？	耳鼻咽喉科学講座 講師 森 恵莉
4月26日	琉球新報	バイオフィルムを“透視”/ 慈恵医大など 歯周病解明にも期待	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
4月27日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門	小児科 助教 堀向 健太
4月27日	毎日新聞 Web	ほむほむ先生のアレルギー入門 花粉症根治の免疫療法	小児科 助教 堀向 健太
4月28日	NHK	ニュースウォッチ9	薬理学講座 講師 志牟田 美佐
5月1日	medical note	日本産科婦人科学会5月に東京で開催―講演会会長に聞く、産婦人科医療をめぐる課題	産婦人科学講座 教授 岡本 愛光
5月1日	東京新聞	20年以上、職を転々…就職氷河期世代の研究者、苦境の背景は「日本の研究力下がる」 国に待遇改善要望へ	薬理学講座 講師 志牟田 美佐
5月2日	宮崎日日新聞 web	都内で「ビタミンの父」高木兼寛をしのぶ会	大学 学長 松藤 千弥
5月3日	静岡新聞、沖縄タイムス他	時の人＝東南アジアでの医療支援のドキュメンタリー映画が公開された耳鼻科医 大村和弘（おおむらかずひろ）さん	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
5月3日	河北新報	認知症カフェ 全国8000カ所へ増加 対等な関係づくり鉄則 専門家「誰かの役に立つ体験を」	精神医学講座 教授 繁田 雅弘
5月7日	朝日新聞	WHOコロナ緊急事態修了 ワクチン・治療薬で致死率減 オミクロン後 免疫機能高まる	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
5月7日	フジテレビ 日曜報道 THE PRIME	アジアの医療を変えた日本人・Dr. バラー・カンボジアで挑む“歴史的”手術	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
5月9日	毎日新聞 Web	医療プレミア特集 「Dr. Bala」は、いかにして東南アジアを目指すようになったのか	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
5月9日	時事メディカル	ビタミンDサプリメントを摂取すると癌の死亡率は12%減少する 国際共同研究による10万人のデータ解析で明らかに	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
5月9日	マイナビニュース	ビタミンDサプリの内服でがん死亡率が12%減少 慈恵医大が実験結果を発表	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
5月11日	毎日新聞 Web	医療プレミア特集 なぜ国際協力のために大村和弘医師は「日本一」を目指したのか	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
5月14日	時事通信	【健康】糖尿病との付き合い方 コロナ下の血糖管理	糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 西村 理明
5月15日	@DIME	ビタミンDサプリメントを摂取するとガン死亡率は12%減少、東京慈恵会医科大学が国際共同研究で発表	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
5月16日	読売新聞	医師・栄養士・AI 専門家 宇宙生活へ人材育成 市場拡大予測大学が本腰	東京慈恵会医科大学
5月16日	東奥日報	連載/時のひと/大村和弘（おおむらかずひろ）さん、東南アジアでの医療支援のドキュメンタリー映画が公開された耳鼻科医	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
5月16日	47news	バイオフィルムを“透視” 慈恵医大が新技術開発	細菌学講座 准教授 杉本 真也 教授 金城 雄樹
5月16日	yomiDr.	「宇宙人材」国内で育成、医師・栄養士・AI 専門家ら…月面生活見据え	東京慈恵会医科大学
5月19日	時事メディカル	超高磁場MRIで見る霊長類「全脳」神経回路の多様性―分野横断型の霊長類脳標本画像リポジトリ：ヒト脳と精神・神経疾患の理解を加速する国際研究基盤―	再生医学研究部 教授 岡野 ジェイムス 洋尚 講師 太田 裕貴 大学院生 曾我部 和美
5月19日	日本経済新聞 web	慶大・京大・生理学研究所・ジョンズ・ホプキンス医科大など、霊長類脳標本画像リポジトリを開発	再生医学研究部 教授 岡野 ジェイムス 洋尚 講師 太田 裕貴 大学院生 曾我部 和美
5月19日	科学新聞 web	高齢の飼育イルカ 腎臓病の原因はリン蓄積	腎臓高血圧内科 教授 横尾 隆 実験動物研究施設 助教 小泉 誠
5月20日	日経バイオテック	慶應義塾大、超高磁場MRIで見る霊長類「全脳」神経回路の多様性―分野横断型の霊長類脳標本画像リポジトリ：ヒト脳と精神・神経疾患の理解を加速する国際研究基盤―	再生医学研究部 教授 岡野 ジェイムス 洋尚 講師 太田 裕貴 大学院生 曾我部 和美
5月26日	毎日新聞	ひと＝東南アジアでの医療支援のドキュメンタリー映画が公開された耳鼻科医 大村和弘さん	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
5月29日	日本経済新聞 web	慈恵医大、新型コロナウイルス・スパイクタンパク質の病原性を解明	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
5月29日	時事メディカル	新型コロナウイルス・スパイクタンパク質の病原性を解明―新型コロナウイルス後遺症および次世代ワクチン開発に重要知見― 東京慈恵会医科大学	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
5月30日	時事メディカル	多分野にわたる連携・協力による地域社会の更なる発展をめざして 港区と慈恵大学は包括的連携協力に関する基本協定を締結します！	理事長 栗原 敏

院内表彰受賞者 (2022.12～2023.5)

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
2022.12	看護部	10H病棟一同	10H病棟一同	患者満足度向上に資する表彰
2022.12	看護部	11H病棟一同	11H病棟一同	
2023.3	栄養部	栄養部一同	栄養部一同	
2023.3	看護部	17H病棟一同	17H病棟一同	

附属病院(本院)

葛飾医療センター

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
2023.3	消化器・肝臓内科	医師	塩路 彩子	「2022年度救急医療功労者」 救急医療に貢献したことによる院長表彰
2023.3	腎臓・高血圧内科	医師	木戸口 慧	
2023.3	糖尿病・代謝・内分泌内科	医師	大和 梓	
2023.3	小児科	医師	武政 洋一	
2023.3	外科	医師	川窪 陽向	
2023.3	放射線部	医師	竹永 晋介	

附属第三病院

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
2023.3	循環器内科	医師	船木 隆司	救急医療業務功労者表彰
2023.3	総合診療部	医師	大橋 龍太郎	
2023.3	眼科	医師	-	
2023.3	耳鼻咽喉・頭頸部外科	医師	-	チーム医療業務功労者表彰
2023.3	リハビリテーション科	医師	-	
2023.3	管理課	事務員	福田 徹朗	チーム医療業務功労者表彰
2023.3	看護部(5B)	看護師	-	
2023.3	腫瘍・血液内科	医師	郡司 匡弘	ベストホスピタリティ賞表彰
2023.3	腫瘍・血液内科	医師	瓜生 英樹	

附属柏病院

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
2023.1	放射線部	医師 看護師 放射線技師	放射線部一同	2022年度 医療安全推進週間企画 「患者確認行為の徹底に関する取り組み」 優秀部署
2023.1	手術室	看護師	手術室一同	
2023.1	G7外来	看護師	G7外来一同	
2023.1	4A病棟	看護師	4A病棟一同	
2023.1	中央検査部	検査技師	中央検査部一同	



## 寄付のお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、  
心から厚く御礼申し上げます。

2020年度、2021年度に続き2022年度も新型コロナウイルス感染症は収束せず、本学は教育、研究、医療の各現場で影響を受けました。しかし、一人一人が奮闘しコロナ患者の対応についてその受入れも含め大きく社会に貢献、評価を受け補助金も受領しています。

現在、第三病院の建替えがまさにスタートする段階にあります。地域の医療ニーズに適切にこたえられる病院を目指しています。

医療を取り巻く環境は引続き厳しい状況ですが、本学は今後も教育と医療の充実を一層図っていき社会に貢献していくための様々な取組みを行って参ります。コロナが収束する気配もあり、本学として変化していく社会や環境に対応していくことが重要であり、そのためにはこれからも多くの資金が必要となります。引続き自助努力も重ねて参りますが、資金の調達も限りがあります。

皆様には、引続きご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

## 【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。  
また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱となります。

## 寄付のお願い

## 寄付者名簿

・2022年11月1日～2023年5月31日の寄付者

## ● 企業等

(株)千葉銀行秋葉原支店  
執行役員支店長 三上幸男  
SDPジャパン(株)  
代表取締役社長 永用万人

(株)ハヤオホールディングス  
代表取締役 依田正之  
ソニーグループ(株)  
代表執行役会長兼社長CEO  
吉田憲一郎

(株)世田谷自然食品  
代表取締役 河西英治

松岡塗料(株)

(株)慈恵実業  
慈恵ファシティーサービス(株)  
慈恵メディカルサービス(株)

## ● 同窓生

武石昌則  
高見澤重隆  
後藤健吉  
宇都宮幹子  
永田徹

鶴田純一  
羽生仁

羽生友起子  
羽生健

(医)慈生会梶ヶ谷クリニック  
(医)玲瓏会金町中央病院  
理事長栗原英明

## ● 同窓会支部会・クラス会

同窓会静岡県支部  
昭和55年卒業百恵会

## ● 父兄

穂鷹雄介  
田中宏明  
岡崎正弘  
岡田和則  
中村俊規

## ● 保護者会

東京慈恵会医科大学医学科  
保護者会  
会長 溝渕杏子

## ● 一般個人

濱村光一  
堅山壽子  
鴨下治子  
(元同窓会長曾根田義男の姪)  
鈴木敏久  
湯浅起市郎  
小林綾子  
伊藤博  
大澤賢一  
遠藤正孝  
清水建成  
高井昌史  
岩井伸子  
佐藤かほる  
山内八重子  
菊屋昌子  
市川東  
森貴宏

※一部、前号に掲載できず本号に掲載となりましたこと深くお詫び申し上げます。

※クラウドファンディングによるご寄付は除いています。



ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いじめや差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公平かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待受の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をし事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

- 第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口へ提案することができる。
2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。  
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18  
TEL 03-5400-1202(直通)  
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2  
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145  
FAX 03-3690-7474(直通)



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1  
TEL 03-3480-1151(代表)内線3804、3830  
FAX 03-3430-3611(直通)



柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1  
TEL 04-7164-1111(代表)内線2158  
FAX 04-7164-1197(直通)





## 繁田 雅弘

Masahiro Shigeta

東京慈恵会医科大学  
精神医学講座 講座担当教授

ある難病の患者さんの治療チームに精神科医として参加した時のことです。治療は大成功しスタッフ一同大いに喜んだのですが、告知直後から続いていた感情を失って言葉をなくした状態はその後も年単位で続きました。「どうして病気になったのでしょうか」とずっと繰り返していました。担当医や私が職場復帰を勧めても仕事に戻ることはありませんでした。治療スタッフが患者さんを取り残して駆け抜けていったように私は感じました。その時から、患者がどのように病気に向き合い、どのように治療に主体的に参加するか、そしてわれわれ医療職がどのように支えるかが、私の医療実践の最大の関心事になりました。

近い将来、疾病の診断やアセスメントに加え治療選択や実施においてもAIの役割は増すばかりです。しかし患者自身の心の歩みに合わせた疾病受容や治療選択を支える役目は、最後まで人間が果たさなければならないと思います。

### 経歴

昭和58年に東京慈恵会医科大学を卒業。平成4年から7年までスウェーデン カロリンスカ研究所 老年病学教室 派遣研究員、平成15年より東京都立保健科学大学 教授、平成17年より22年まで首都大学東京(現都立大学)健康福祉学部 学部長、兼 同大学院 健康科学研究科 研究科長、平成23年より26年まで首都大学東京 副学長、平成29年より東京慈恵会医科大学 精神医学講座 教授

### 主な研究テーマ

臨床精神医学とくに老年精神医学を中心に、中高年者の認知機能障害、気分障害、妄想性障害などを専門とする。最近は、認知症患者の支持的療法、高齢者運転免許更新時の認知機能検査デジタル版の開発、軽度認知障害スクリーニングツールの開発に従事。最近の執筆のテーマは、病名告知と障害受容、医療における説明と同意・情報提供のあり方、認知症の人の人権と尊厳に関するもの。

### 社会的活動他

日本認知症ケア学会 理事長、日本老年精神医学会 副理事長、日本認知症学会 理事、日本保健科学学会 理事、日本薬物脳波学会 理事、日本認知症予防学会 東京都支部 理事、日本認知症予防学会神奈川県支部 顧問、東京都認知症施策推進会議 副議長、東京都医学研究機構 理事、認知症の人と家族の会 東京都支部 顧問、東京都福祉保健財団 評議員、東京都人材支援事業団 評議員、港区精神保健福祉連絡協議会委員、港区自殺対策関係機関協議会委員、一般社団法人 栄樹庵 代表理事など



東京慈恵会医科大学 精神医学講座  
<https://jikei-psy.com/introduction/professor/>



## 編集後記

東京慈恵会医科大学附属病院は本年3月20日に東京都より救命救急センターに指定されました。1999年9月に救急部が開設され、2006年4月からは救急科が一つの診療科として独立し、救急部として軽症から重症までの救急患者を受け入れる体制をとってきました。

最近では都内の大学病院の中でもトップクラスの台数の救急車を受け入れるまでになっていましたが、救命救急センターではなかったために、心肺停止事例やショック事例など重症の受け入れ先として救急車が搬送してくれないことがありました。しかし、今回認定されたことでこれまで以上に3次救急症例を受け入れています。

救急部がよりアクティブな活動を開始したように、本学ではコロナ前のように様々な場面でアクティブな活動が広がりつつあります。卒業式や入学式もかつてのように行われるようになり、大学基準協会認定評価の受審に向けた準備も進められています。大学全体の質を向上させて、社会により貢献できるように体制を整えているところです。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧ください、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 浅野 晃司

発行 学校法人 慈恵大学  
発行人 理事長 栗原 敏  
連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8  
学校法人 慈恵大学 広報課  
TEL 03-3433-1111(大代表)  
FAX 03-5400-1281  
e-mail koho@jikei.ac.jp  
号数 第40号  
発行日 2023年7月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>